

建築学部 建築学科 建築専攻

学士課程教育プログラム

1. 大学の目的

本学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

2. 建築学部の教育研究上の目的

建築学部は、豊かな教養及び建築学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、建築学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

3. 学科の目的

建築学部建築学科は、都市環境及び生活環境の創造・生産・維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築学に関する様々な分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

4. 建築学科 建築専攻の教育の目的

建築学科建築専攻の教育の目的には、教養力の育成と専門力の育成があります。

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

建築専攻の専門力の育成とは、次のような内容の修得を目指すものです。

- (1) 地震などの自然界の脅威に対し、建築物の機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計を行うための手法
- (2) 建築物の品質・耐久性を満足させるための使い方や、建築物の効率的な作り方
- (3) 建築設計に必要な知識体系
- (4) 建築造形の基礎と建築の歴史や建築デザインの論理
- (5) 建築環境工学諸分野の原理と建築設備の活用法
- (6) 環境負荷の低減や、時間軸を考慮した付加価値の創出、建築文化の継承を行うための手法

5. 学位授与の方針

大同大学の学士の学位授与の方針は以下の表-1の a, b, c, d の4つです。内容は5.1で詳述します。建築学科建築専攻では、この4つの方針それぞれに関して、専攻での学習内容に沿って複数の学位授与方針（合計12個）を設定しています。内容は5.2で詳述します。

表-1 大学の学位授与方針と建築学科建築専攻の学位授与方針の関係

大学の学位授与の方針	a		b			c					d	
建築学科建築専攻の学位授与方針	a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2

5.1 大学の学位授与の方針

大同大学の学士の学位は、以下の4つの力を身につけている者に授与する。

a. 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている

健全な倫理観に基づき、規律性をもって主体的にかつ目標を定めて行動する力、現状を分析して目的や課題を明らかにする力、他者と協働するためのコミュニケーション力を身につけている。

b. 豊かな教養を身につけている

教養ある社会人に必要な文化・社会や自然・生命に関する一般的知識を身につけ、異なる思考様式を理解する態度と力を身につけている。

c. 確かな専門性を身につけている

自らの専門分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけ、当該分野の情報・データを論理的に分析し、課題解決のために応用する力を身につけている。

d. 豊かな創造力を身につけている

獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。

5.2 学科(専攻)の学位授与の方針

建築学科建築専攻では、以下の学位授与方針を満たした者に学位を授与します。

a1. 社会人として活動するために必要となる基礎的な知識や技能を身につけている。

社会人として活動するために身につけておくべき基礎的な知識や技能は、レポート・論文の作成、プレゼンテーション、他者とのコミュニケーション、健康管理、PCを使ったデータ処理など、多岐にわたります。人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語科目、スポーツ実技、DX科目等を開講しており、これらの科目を通じて社会人として基礎となる知識や技能を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、この項目a1と次の項目a2は互いに密接に関連しており、両方とも身につけることで「社会人として身につけるべき基礎的な能力」が完結します。

a2. 正しい現状分析や健全な倫理観に基づき、主体的に課題や目的を明らかにする力を身につけている。

身につけた知識や技能を仕事や研究の現場で活用するためには、主体的な姿勢で課題や目的を明らかにする力が必要になります。また、現状を正しく分析する力や健全な倫理観を持つことも必要です。人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語科目、スポーツ実技、DX科目等を通して、現状を正しく分析する力、健全な倫理観、主体的に課題や目的を明らかにする力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、この項目a2と前の項目a1は互いに密接に関連しており、両方とも身につけることで「社会人として身に付けるべき基礎的な能力」が完結します。

b1. 歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

現代社会ではさまざまな情報が氾濫しています。これらに惑わされることなく正しい情報を見極めて良識をもって行動するためには、「教養ある社会人」として歴史や文化、社会のしくみ、自然科学などに関する一般的知識を正しく身につけ、さまざまな思考様式を理解する態度と力を身につけている必要があります。また、仕事等の実用面のみならず、今後の人生を充実したものとするためにも「豊かな教養」を身につけることは大切です。

「歴史・文化・こころの理解」に関する一般的知識には、歴史学、文学、哲学、心理学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、歴史・文化・こころの理解に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社

会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

b2. 社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

「社会のしくみ」に関する一般的知識には、政治学、経済学、法学、社会学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、社会のしくみに関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

b3. 自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を身につけている。

「自然科学」に関する一般的知識には、自然科学概論、生物学、地球科学、認知科学などが含まれます。人間科学科目群Bグループにおいては、自然科学に関する一般的知識およびそれをもとに思考する力を学びます。また、各学科・専攻により独自に開講している科目もあります。なお、社会人としての「豊かな教養」を身につけるために、項目 b1、b2、b3 はできるだけ偏りを作らずに修得することが望まれます。

c1. 建築学の基礎として数学、自然科学を理解し活用することができる。

建築学のさまざまな分野で自然科学の知識が用いられます。特に、力と運動の関係や熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性や自然環境を理解するために化学が必要となります。また、専門分野で用いられる数式を理解し応用するためには数学の知識が必要となります。専門基礎科目群では、専門分野の基礎となる数学や自然科学を学びます。それぞれの専門科目の知識を習得するためのみならず、専門分野において創造的な仕事や研究をする上でも、これらの基礎知識をしっかりと身につけておくことが重要です。

c2. 荷重や、建築物がそれを支える仕組みを理解し、地震などの自然界の脅威に抵抗し、機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計する力を身につけている。

建築物がその機能を維持し、人びとが安心して使用できるようにするためには、重力を始め、自然から受けるさまざまな力に対して、壊れることなく安全であることが要求されます。そのためには、建築物の骨格となる構造システムが力を受けたときに、内部にどのような力が生じ、またどのような変形が生じるかを、数学や物理学（力学）を基礎とした具体的な計算により、あらかじめ予想しておかなければなりません。設計者には、常時支えている荷重はもとより、地震や風などによってもたらされる一過的で大きな荷重に対しても、建築物が十分な性能をもっているということを明確に示し、かつ説明する能力が求められます。このことから、建築構造物を適切にモデル化して解析を行い、技術者として正しい工学的判断を下すために必要な理論を修得する必要があります。

c3. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および施工方法を提案する力を身につけている。

木、鉄、コンクリート、ガラスなどといった建築物をつくるのに欠かせない材料の性質を理解し、適切な使い方を学ぶことが必要です。材料にはそれ自体のもっているさまざまな特徴があり、これを生かして使うことが必要です。さらには、地球環境や将来のことを考えれば、丈夫で長持ちのする建築物をつくる必要があります。これには、適切な材料の選択がもっとも重要であるといっても過言ではありません。

しかし、材料の選択が適切であっても、良い建物の作り方が伴わないと、全体的に優れた建築物はできません。このため、建築物に用いられる材料の適切な選択と、それを用いた効率的な施工法を併せて知ることが必要です。

c4. 文化遺産としての建築の価値を歴史的背景と共に理解した上で、空間造形の基礎を身につけ、建築デザインの論理を理解し、建築の設計をする力を身につけている。

建築は美しくあらねばなりません。美しい建物を実現するためには、建築を含めた造形芸術全般に関する美的な感覚の鍛錬が必要です。

しかし、建築の美は、絵画や彫刻のように、芸術家が自らの心の内にある情念を何物にもとらわれずに自

由に表現した美とは異なります。なぜならば、建築はそれを実現する技術と無関係にはありえませんし、それが建てられる土地の気候風土や伝統、文化、生活様式とも無関係には存在しえないからです。このことを十分に理解するためには、建築のもつ多様な表現を、技術との関連において、歴史的な視野のなかで概観することが必要不可欠です。

また建築の美は、文化や生活様式の反映なのですから、それを具体的な形として反映させるためには、論理的な思考が必要です。具体的な作品の分析をとおして、デザインの論理を学ぶ必要があります。

建築設計は、さまざまな知識と自らの創造力を駆使し、求められる建築を図面化できることが必要です。そのために、建築と都市の計画学および建築法規など建築設計作業を遂行するために必要とされる知識を身につける必要があります。また、建築設計作業を行うためには、表現できる力を身につけることも必要です。そのために建築図面の書き方を修得する建築図法を学び、建築設計の課題を通じて技術、創造力を向上させていくことが必要です。

c5. 持続可能な社会において、快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用する力を身につけている。

巧みな空間構成と見事な意匠とで創造された建築は、その空間を体験した人に必ず快適な印象を与えるでしょうか？答はNo!です。例えば、吹き抜けの存在により冬は暖房してもなかなか室温が上昇しない。デザインのために窓面積を小さくしたため日中でも人工照明なしでは細かい字が読みづらい。大胆なトップライトを採用したが、夏の暑さと、冬期暖房時の結露には参った。こんな事実こそ、建築環境工学を学ぶ意義があります。

建築環境工学の目的はいたってシンプルで、人間が建築空間で快適に過ごせて心の安らぎが得られ、作業がストレスなくはかどるようにするにはどういうことを考えたらいいのか、ということです。ただ、そのためには非常に多岐にわたる勉強が必要となってきます。例えば大きなオフィス空間を想像してみてください。その天井にはある一定の間隔で、照明器具と空調の吹き出し口があります。人工的なものに頼らないと快適な作業空間はなかなか創り出せないようです。空調ばかりでなく、給排水、電気、消防設備などについてもその概要を学ぶ必要があります。

人間は自らの環境を快適にしたいがために、逆に環境からも問題を投げかけられています。地球温暖化、ライフサイクル、CO₂といったことばは、現在、未来を語るのに必須なキーワードです。建築環境工学では地球の環境問題についても考えることが必要です。

昨今、サステナブルな社会の構築が叫ばれています。これは、持続循環型の社会システムへの転換を意味します。このことは建築に携わる者においても大きな問題であり、従来、資源を浪費し、多くの廃棄物を生み出してきた建設産業の在り方が問われています。材料の使い方や生産システムには環境負荷低減と維持・保全の視点を取り入れる必要があります。また、建築物の設計においては、経営計画にまで踏み込んだ企画提案型リニューアルなどによって建築物の価値の向上を図るなど、建築を経営資源として有効に活用するための施設の管理手法も必要になってきます。さらに、文化遺産や文化財として都市と建築を捉え、その現代的意味や継承のあり方を考えるとともに、良質な社会資本の保全・運営にあたることにより、持続可能な社会を築いていく方法を学ぶ必要があります。これらのいずれにも共通することは、時間軸を考慮して建築を捉えていくということです。

d1. 獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力を身につけている。

大学の授業ではさまざまな知識・技能・態度を獲得します。これらを総合的に活用し、さらに自由な発想の下で独自に工夫・応用して新たな知見を創造することにより、仕事や研究の現場で自ら課題を設定し、その課題解決に向けて深く探求することができます。人間科学科目群では、さまざまな知識や技能を修得する中で、それらを総合的に活用し新たな知見を創造する力を学びます。特に人間科学科目群Bグループでは、セミナー形式での演習系科目も設けており、人文科学・社会科学・自然科学の各分野において課題を設定し探求する方法を修得する中で、これらの力を学びます。また、各学科・専攻により独自に科目を開講しており、

これらの力を学びます。

「建築学」は、合理的なことも非合理的なことも含めて、あらゆる産業あらゆる社会と接点を持ち、そこで生活するあらゆる人間のための学問です。つまり実学を統合する唯一の学問だともいえます。人文科学、社会科学、自然科学をバランスよく学ぶ建築学科での、「設計・計画」、「構造」、「材料」、「環境」、「歴史」の、5つの分野の学びを総合的に取り扱い、統合できる力を身につけます。

d2 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組む力や状況に応じて知識を多角的に展開する力を身につけている。

実習・演習・設計などの授業には、それぞれの授業の特色に沿ったプレゼンテーション学習が組み込まれています。さらに、それらを総合しプレゼンテーションに特化した演習がおこなわれます。プレゼンテーションとは、自分の考えや主張を他人に説明し、共感や納得してもらうことをいいます。これにはふたつの段階があると考えてください。第1は、主張やアイデアのポイントを的確にまとめ、作品のイメージを美しく印象的に表現すること。そして第2には、それを用いて人びとに対して語りかけ、自分の主張をアピールすることです。

6. 教育課程

第5章で説明した学位授与の方針は、4年間で身につけることが必要な知識や能力を示したものです。これを獲得するための学修の達成に必要な授業科目が記されたものが教育課程です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。それぞれの授業科目の教育内容については 6.1~6.3で説明します。6.4では卒業後の進路等に対応させて、教育課程の授業科目をどのように学修していくかという履修モデルが例示します。各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかは、6.5で紹介するカリキュラムマップにおける学修到達目標に具体的にまとめています。

なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

以下にそれぞれの授業科目の授業内容および達成目標について説明します。



図一 建築学科建築専攻の教育課程の構成概念図

6.1 人間科学科目群

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナー

ファースト・イヤー・セミナー (First Year Seminar、略して FYS、初年次セミナー) とは、新入生である皆さん方全員に、今後 4 年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうしても積極的に参加できなかつたり、せっかく勉学に打ち込んでそれが空回りに終わって、4 年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方 (つまり知的レベルをステップアップする方法) のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように 5 つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとおり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに

適応できること、言いかえると皆さんが手助けをもって大学生生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとするとき、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

＜英語スキル1・2、資格英語、実践英語、英語ライティング、英語プレゼンテーション、中国語入門1・2＞

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「英語スキル1・2」、2年次前期に「資格英語」を必修科目として開講しています。また、2年次後期に「実践英語」を選択科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「英語ライティング」、「英語プレゼンテーション」という選択科目を開講しています。英語以外の外国語として、中国語の基礎を学びたい学生は、1年次に「中国語入門1・2」を選択科目として開講しています。

③ 健康科学科目＜スポーツ実技A・B、スポーツと健康の科学A・B＞

大学におけるスポーツ実技A・Bは、1年次にA、Bを配当しています。週1回の実技を通してスポーツの技術およびその楽しさを学ぶことで、学生諸君が将来（生涯スポーツとして）も運動を継続して行えるような素地を身につけ、スポーツを通じて集団を意識し、社会に対する適応力を向上させることを目的としています。

スポーツと健康の科学A・Bは3年次に配当しており、スポーツ科学および健康の維持増進に関する講義を行います。スポーツや身体の仕組みについて学び、各個人がより健康に生活できるような知識と態度を身につける事を目的としています。

④ 基礎英語セミナー

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることとなります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

⑤ DX(デジタルトランスフォーメーション)科目＜情報リテラシー概論・データサイエンス概論＞

現在、日本政府は、未来社会の姿として掲げている「Society 5.0」と呼ばれる社会構想を推進することで「超スマート社会」を実現することを目指しています。

超スマート社会で活躍するであろう皆さんにとっては、大学で学修する分野によらず、データサイエンスや人工知能(AI)を理解して、適切に活用する力をつけることが重要です。

データサイエンスやAIは今後のデジタル時代のよみ・かき・そろばんと言われており、すべての社会人が正しい使い方を身につける必要があります。

本学では、この内容を修得するため、1年生前期に「情報リテラシー概論」が、また1年生後期に「データサ

「サイエンス概論」が、すべての学科・専攻において必修科目として設置されています。

どちらの科目ともオンデマンド形式の遠隔授業として開講されます。

各自のノート PC 等を利用して都合のよい時間に学修し、設定された課題を指定された期日までに提出してください。

なお、この二科目は文部科学省により実施されている「データサイエンス教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に準拠した学修内容になっています。

・情報リテラシー概論

超スマート社会で活躍するためには、PC・スマートフォンなどの情報機器や、それらで得られる情報を適切に効率よく利用できるようになることが重要です。

本講義では、様々な情報サービスを適切に効率よく利用するための方法について説明します。

特に、本学で使用できる各種サービスについて説明します。

今後の活動で必要となるグループでの情報共有やコミュニケーション、情報の共有方法など、情報通信技術の基礎的な使用方法を確立してください。

・データサイエンス概論

卒業後に自分が活躍したい業界・業種に関わらず、今後の社会ではデータサイエンスやAIを理解することは重要です。

本講義では、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を身につけることを目的としています。データやAIが社会にどう関わっているかを理解して、それらを活用するための方法について学修します。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程（カリキュラム）は、三つの科目群に支えられています。一つは各学科・専攻でおもに学ぶ専門科目群、他の二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群はファースト・イヤー・セミナーと語学、体育の実技を含むAグループと、講義科目であるBグループから成り立っています。

人間科学科目群Bグループは、「人間・歴史文化・こころの理解」（人文科学分野、10科目）、「国際情勢と社会のしくみ」（社会科学分野、12科目）、「科学的なものの見方」（自然科学分野、12科目）、「学問への複眼的アプローチ」（学際的分野および演習、5科目）の4つのカテゴリーから構成されており、現代のリベラルアーツ教育において求められる多様かつ幅広い分野の科目を提供しています。これらに加え、より深く学びたいとの高い意欲をもつ学生に向けて、ゼミナール（小集団演習）形式の「課題探究セミナーA」、「課題探求セミナーB」を開講しています。

これらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんに多様な知的刺激を与えることができるように工夫されたものばかりです。そのねらいは、トータルな人間教育にほかなりません。言いかえると、皆さんが今をタフに生き、将来を担う一市民としての教養を身につけ、それに磨きをかけること、これが本科目群の目指すところ です。

大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で豊かな人生を創出していくためには「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション力」、「自ら考える力」それと「協働力」に重点を置いています。こうした点で皆さんが自分らしさを発揮できるよう、Bグループにはさまざまな授業を取りそろえています。できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望まれます。

現在、私たちは歴史的転換期に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入し、不透明で不確実な時代に入りつつあります。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介して緊密に結びつくと同時に、アメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州、東欧およびロシア圏、アフリカ中東圏などで生じるローカルな歪みが、

即座に世界各国に対し甚大な政治的・経済的影響をもたらします。さらに今後はAI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力をはるかに超える近未来社会が待ち受けています。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは好ましいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められるのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出し伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、文学、哲学、歴史学、人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査法、現代社会論、課題探究集中講座が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境と防災、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2年次、3年次には、「課題探究 세미나」として、アクティブ・ラーニングやPBL（問題・課題解決型授業）を意識した少人数科目を開設しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためにはどう向き合えばよいのかについて自分自身で考え、仲間と語り合い、行動をおこすところに醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

6.2 専門基礎科目群(カリキュラムフローチャート)

専門基礎科目群において学習する教育内容および学修到達目標について説明します。図-2の「カリキュラム・フローチャート」には、専門基礎科目群の授業科目のつながりとそれらの履修年度と学習順序が示してあります。

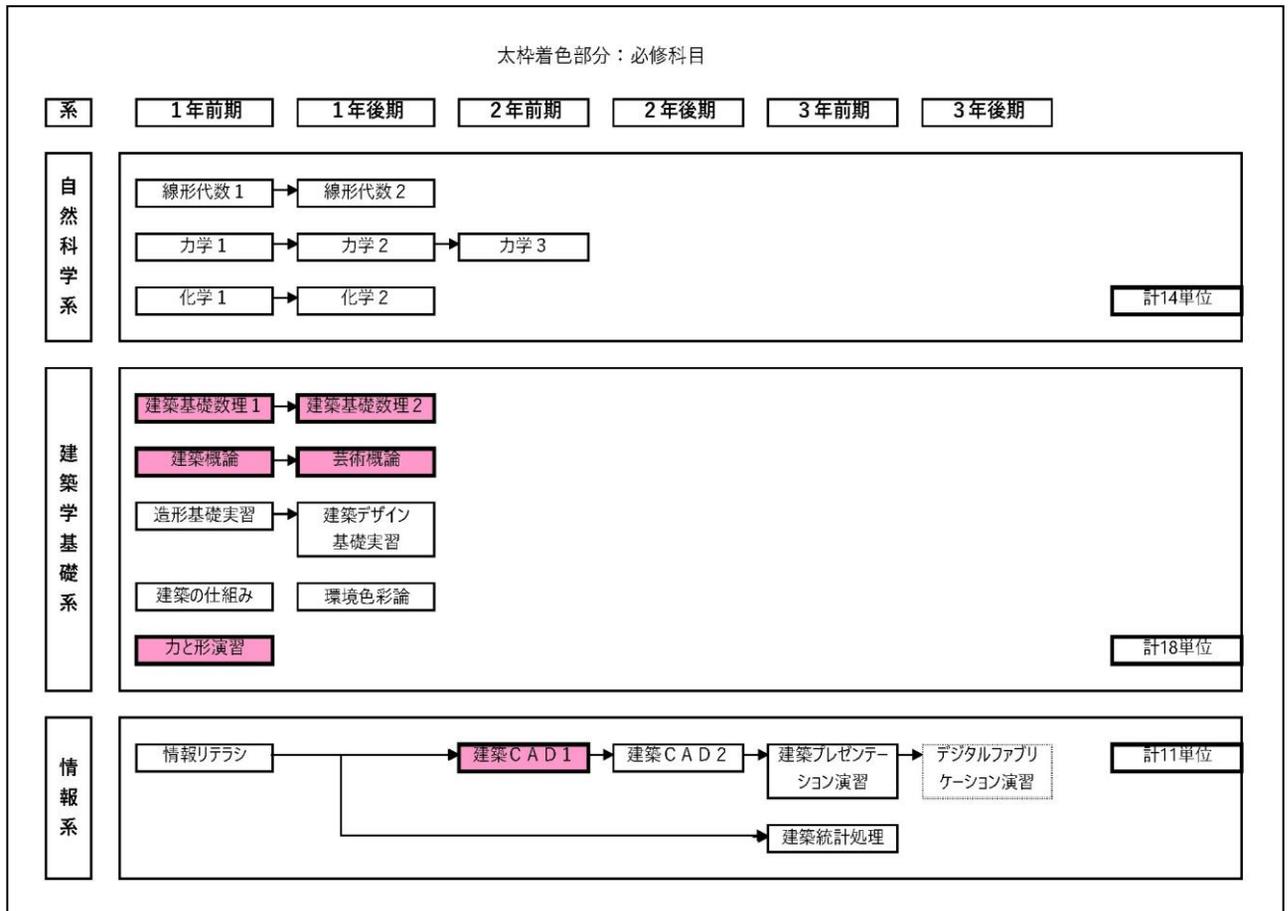


図-2 専門基礎科目群のカリキュラム・フローチャート

(1) 自然科学系

a. 教育内容

本学の学位授与の方針にあるように、豊かな教養を身につけ、豊かな創造力を身につけるためには、それぞれの専門分野にとらわれずに幅広い自然科学的なものの見方、考え方を修得することが大切です。そのために自然科学系の科目として、数学関係2科目、物理関係2科目、化学関係2科目が編成されています。それぞれの教育内容は、次のとおりです。

①[数学関係科目](線形代数1, 線形代数2)

線形代数1と線形代数2では、2つのもの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となる「比例する」という関係を多くのもの間の関係に拡張した線形性と呼ばれる考え方について学びます。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会学等の社会科学においても重要な、2つ以上のもの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

②[物理関係科目](力学1, 力学2, 力学3)

力学とは物体の運動を知ることが目的とする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・建築学・情報学の考え方の基礎が集約されています。物体の代表例は工業材料（歯車やクランクなどの機械部品、あるいは車や人工衛星、建築物などの製品）です。工業材料の静止状態を扱う科目の基礎事項も、

そして工業材料が動く状態を扱う科目の基礎事項も、力学1、2、3という科目で扱います。力学1、2、3を通して、ベクトルと微分積分を使って力の合成・分解、運動方程式を解いて物体の運動を決定する手順、エネルギー保存則など力学の重要事項を学びます。特に大切なのは、『運動方程式は微分方程式であり、それを満たす解（関数）が運動を表す』という点です。その具体例として、放物運動、円運動、バネの力による単振動、摩擦がある場合の減衰振動、周期的な外力が働く場合の強制振動など、工業材料の動きを理解する上で重要な運動を扱います。さらに、振動の応用として理解できる波動の基礎事項も力学3で学びます。

③[化学関係科目](化学1, 化学2)

地球環境や物づくりを理解するには、物質についての基礎知識が必要です。化学1では物質の構成要素である原子、分子そのものやそれらが集団になったときに現れる基本的な性質と挙動について学びます。化学2では、より具体的な化学物質の特徴や化学反応について学びます。

(2) 建築学基礎系

a. 教育内容

そもそも「建築学」の領域は、理系としての工学の枠だけに収まるものではなく、歴史や哲学のような文系の要素、デザインや空間構成のような芸術系の要素、それらすべての要素が包含されており、欧米の大学では、大学での「建築学」教育にあたり、日本のような工学部等の他学問分野との小学科方式をとらずに「建築学部」としているところがほとんどです。また、本学は理念として「実学主義」を掲げ、実学の教育と研究を通じて産業と社会に貢献するとしています。

「建築学」は、合理的なことも非合理的なことも含めて、あらゆる産業あらゆる社会と接点を持ち、そこで生活するあらゆる人間のための学問です。つまり実学を統合する唯一の学問だともいえます。

人間科学科目群 Bグループでも、人文科学、社会科学、自然科学をバランスよく学びますが、建築学基礎系の科目では、それらの中から、もう少し建築学に近いものを科目として設定しています。

それぞれの教育内容は、次の通りです。

[建築関係科目]

建築基礎数理1. 2

建築学を学ぶ上で必要となる基礎的な数理について学習します。建築基礎数理1では、数学的な基礎をまず学習し、これを用いて建築で実際に必要となる計算に応用します。また、建築の基礎的な内容や、建築で必要な化学や環境問題を学習します。

建築概論、芸術概論

建築学は、設計・計画、構造、材料、環境、歴史といった5つの専門分野から成り立っており、それらの4年間での学びを15週に凝縮し、オムニバス形式として開講します。また多岐にわたる芸術作品を、過去から現代にいたるまでの様々な名作を紹介取り上げて、芸術や美術を学ぶ機会を提供します。

環境色彩論

色と光の関係、色覚メカニズム（色の見え方）、色の表し方、色彩調和論に基づく配色技法、色彩心理、そして建築・都市を構成する色彩デザインの実情等、建築を学ぶうえでも必要とされる色彩に関する基礎的知識を学びます。

造形基礎実習、建築デザイン基礎実習

あらゆるスケッチを通して、造形感覚を養います。また建築デザインの基礎的な実習を行います。

建築の仕組み、力と形演習

木造を中心とした建築物の構築方法や、基礎力学を、体験的かつ総合的に学びます。

(3) 情報系

a. 教育内容

高度情報通信社会ということばやインターネットに代表されるように近年の情報化の進展は著しく、21世紀の社会においては、一人ひとりが、情報の発信・収集・活用・伝達を効率よく実践できる情報活用能力を身につけることが必要です。このような時代に乗り遅れないように、大学4年間における皆さんの情報活用能力の育成を目的として、専門基礎科目群のなかで情報系科目を設けています。

1年次に、電子メールやインターネット、基本ソフトウェア（ワープロ、表計算、作図用2次元CAD）の操作といった基本的な情報の活用方法を体験し、情報処理の原理や仕組みを理解できるようになっています。また2年次以降は3次元CADや画像処理、プレゼンテーションの技法など、建築の現場で使われるより高度な情報活用技術や、さまざまな調査分析などに活用できる統計処理の手法について学びます。

【情報系関係科目】

情報リテラシ、建築CAD1.2、建築プレゼンテーション演習、建築統計処理、デジタルファブリケーション演習

(4) 基礎数学セミナー・基礎理科セミナー

ア 【数学関係科目】（基礎数学セミナー）

基礎数学セミナーでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。

なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ 【物理・化学関係科目】（基礎理科セミナー）

大学で学ぶ科目の中に、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナーでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。

なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

6.3 専門科目群(カリキュラムフローチャート)

専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目と卒業研究からなります。図1にあげた各専門科目がどのようにつながっているか、それらの学習順序がどのようになっているかを図3に示します。教育目標を達成するために、建築学科建築専攻では全般的にわかりやすい授業に努めるとともに、体感型・演習型授業を重視し、「読む・聴く」ことで覚えるよりも、まず「体験・実行」してからだをつかって理解できるようにしています。また、授業のなかで学生自らが考えた案を地域社会に提案する機会を設け、社会貢献へのモチベーションと自信を育てます。これらを通じて論理的思考や問題発見能力を培い、総合力を高めます。

これらの科目について教育内容の概要を以下に説明します。なお、各授業科目で何を学んで、どんな知識を修得するかは、後述の(4)に具体的にまとめています。

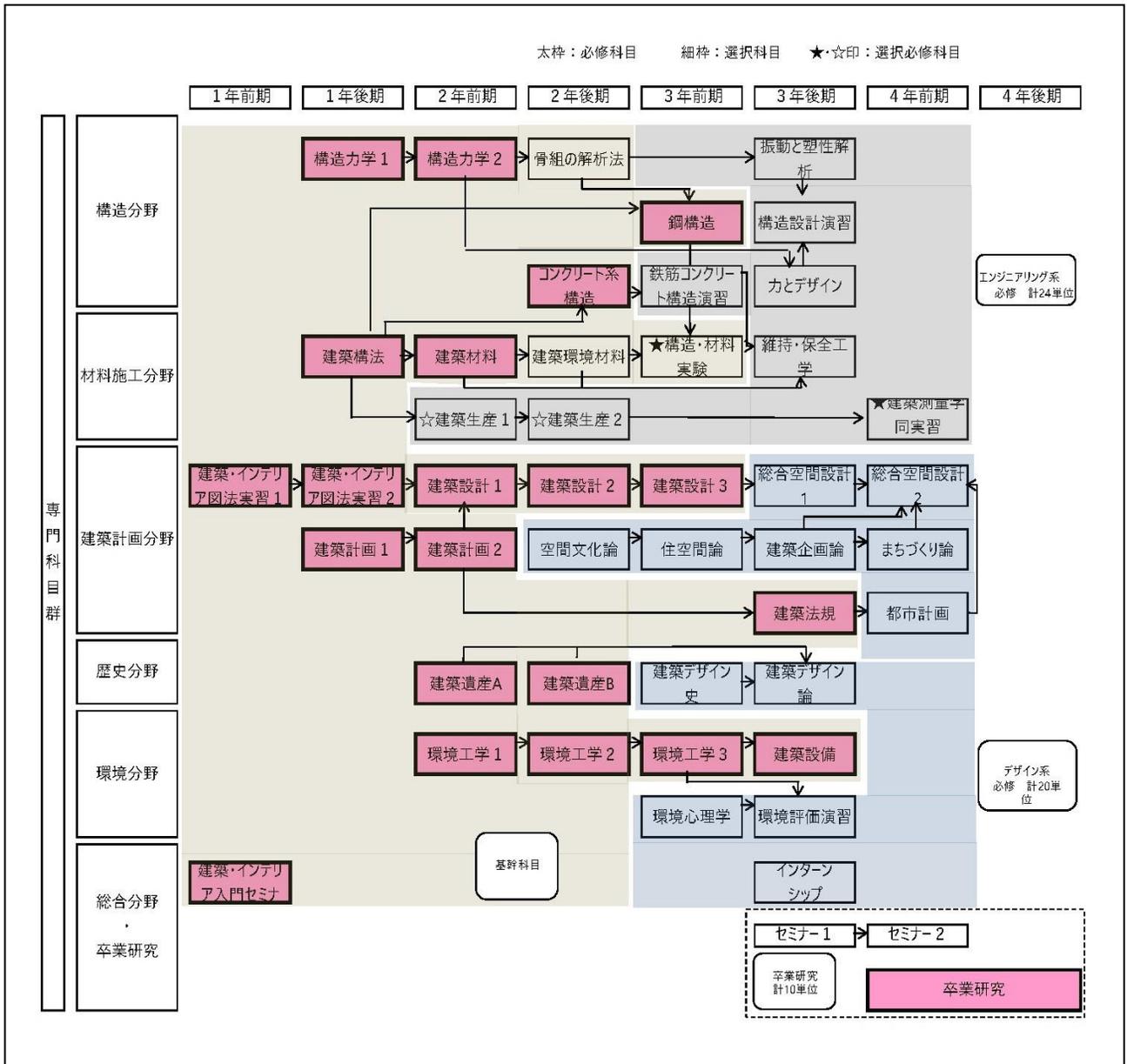


図-3 専門科目群のカリキュラム・フローチャート

(1) 基幹科目

基幹科目は、入門的・基礎的な専門知識を学ぶ必修科目と選択科目からなります

①必修科目 必修科目では、入門的・基礎的な専門知識を学びます。

建築・インテリア入門セミナー

建築およびインテリアを学ぶ為の動機づけ科目です。

構造力学1、構造力学2、コンクリート系構造、鋼構造

いずれも建築物を設計・施工・管理するときに必ず必要になる基礎力学を学びます。

建築構法、建築材料、構造・材料実験

建築の様々な構法の詳細や、建築の材料として用いられる鉄、コンクリート、木材などの化学的・力学的特徴を学びます。

建築・インテリア図法実習1、建築・インテリア図法実習2

建築図面の表現方法や透視図など、建築設計を進める上で不可欠な製図の基礎を学びます。

建築計画1、建築計画2、建築設計1、建築設計2、建築設計3、建築法規

建築設計の進め方を学習するとともに、建築設計に必要な基礎知識を学びます。

建築遺産A、建築遺産B

日本や西洋の建築の歴史を学びます。

環境工学1、環境工学2、環境工学3、建築設備

各環境要素について、諸問題や評価方法などを学習し、建築環境工学と建築設備の基礎を学びます。

②選択基幹科目

建築環境材料

環境負荷を軽減するための建築材料に関する知識を学びます。

骨組の解析法

不静定の骨組みの解法であるたわみ角法やコンピュータによる解析を学びます。

(2) 展開科目

2年次後期以降に配当されている展開科目はすべて選択科目です。

エンジニアリング、デザインの二つの系に分類しています。卒業後の進路（進学、就職）を想定して、履修できるようにしています。

二つの系の教育内容は以下のとおりです。

エンジニアリング系：振動と塑性解析、力とデザイン、構造設計演習、鉄筋コンクリート構造演習、維持・保全工学、建築生産1、建築生産2、建築測量学同実習（計8科目）

建築産業の現場において技術的諸問題を容易に解決し、業務を円滑に遂行できる能力をそなえた技術者、また社会に根ざした技術者となることをめざしている皆さんに必要な科目です。建設業、住宅産業、建材メーカー、構造事務所などに就職して、機能性にすぐれ、安全性がある建築を設計・施工するような仕事に就くために必要な専門知識が修得できるようになっています。

デザイン系：空間文化論、住空間論、建築企画論、都市計画、まちづくり論、建築デザイン論、総合空間設計1、総合空間設計2、建築デザイン史、環境心理学、環境評価演習（計11科目）

「環境」の視点と人間の生活様式、文化的・精神的活動の表現としてのデザインをより専門的に学ぶことができる科目です。設計事務所、インテリア関連、住宅産業、建築設備会社などに就職して、機能的かつ快適で美的感覚に快い刺激を与えてくれる建築物を実現する仕事に就くために、必要な専門知識を修得できるようになっています。

インターンシップ（学外研修）

設計事務所事務所、建材メーカー、ゼネコン・工務店、販売店などの学外企業において建築実務のインターンシップをおこないます。

(3) 卒業研究

「卒業研究」に関連する科目は、 세미나1、 세미나2、そして卒業研究からなります。

卒業研究は1年～4年次で履修する専門科目の総括として位置づけられるものです。課題を探求し、組み立て、解決する実践的能力を養います。教員の指導のもとで、各自が研究テーマを決め、研究計画を作り、研究を遂行し、その結果を考察し、これらをまとめ、発表するというものであり、卒業論文あるいは卒業設計からなります。 세미나1、 세미나2は卒業研究を行うにあたって必要な内容を各自の研究テーマに応じて専門的に学びます。

学習到達目標

4年間の専門教育課程を修めることにより、標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学んで、どのような知識を修得するかを、カリキュラムマップにまとめてあります。

(4) 横断的な科目の履修

建築学科建築専攻では、同一学科内の他の専攻の開講する授業科目を選択科目として履修し、12単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができます。

例えば、インテリアデザイン専攻であれば、インテリア設計1、インテリア設計2、インテリア設計3、インテリア計画1、インテリア計画2、インテリアエレメント演習1、インテリアエレメント演習2、デザインマネジメント演習1、デザインマネジメント演習2が、建築専攻では開講されていない科目として開講されており、関心がある科目を横断的に履修し学修することができます。

6.4 履修モデル

基幹科目で重要なことは建築学を学ぶときに不可欠な基本知識を修得することです。また、展開科目や卒業研究では、卒業後の進路も見据えて、建築学のなかでどの分野に主眼をおいて学習するかを自分自身で考えることが大事です。

履修モデルA（エンジニアリング系）および履修モデルB（デザイン系）は、卒業後の進路に対応させて、以上に説明した教育課程の授業科目（専門基礎科目群と専門科目群）をどのように学習していくかという履修モデルを例示したものです。

・エンジニアリング系履修モデルA

このモデルでは、エンジニアリング系の授業科目を選択しています。

卒業後の進路として、建築物の設計や施工に関わる建設業を想定しています。

履修モデルA（エンジニアリング系）

科目群		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
学 科 目	Aグループ	4	3	1	1				必修9単位	
	Bグループ	2	2	4	4	4	2		選択必修18単位	
履修単位（想定）		6	5	5	5	4	2	0	0	
専 門 基 礎 科 目 群	自然科学系	線形代数1	線形代数2	力学3						
		力学1	力学2							
		化学1	化学2							
		建築基礎数理1	建築基礎数理2							
	建築学基礎系	建築概論	芸術概論							
		造形基礎実習	建築デザイン基礎実習							
		建築の仕組み	環境色彩論							
		力と形演習								
		情報系	情報リテラシ	建築CAD1	建築CAD2	建築プレゼンテーション演習	デジタルアプリケーション演習			
		建築統計処理								
専 門 科 目 群	建築計画分野	建築・インテリア図法実習1	建築・インテリア図法実習2	建築設計1	建築設計2	建築設計3	総合空間設計1	総合空間設計2		
		建築計画1	建築計画2	空間文化論	住空間論	建築企画論	まちづくり論			
						建築法規	都市計画			
	歴史分野	建築遺産A	建築遺産B	建築デザイン史	建築デザイン論					
	環境分野	環境工学1	環境工学2	環境工学3	建築設備					
				環境心理学	環境評価演習					
	材料施工分野	建築構法	建築材料	建築環境材料	★構造・材料実験	維持・保全工学				
			☆建築生産1	☆建築生産2		★建築測量学同実習				
	構造分野	構造力学1	構造力学2	骨組の解析法	力とデザイン					
					鋼構造	振動と塑性解析				
				コンクリート系構造	鉄筋コンクリート構造演習	構造設計演習				
	他専攻展開科目	インテリア設計1	インテリア設計2	インテリア設計3						
		インテリア計画1	インテリア計画2	インテリアエクスツト演習1	インテリアエクスツト演習2					
デザインマネジメント演習1			デザインマネジメント演習2							
総合分野・卒業研究	建築・インテリア入門セミナー				インターンシップ	セミナー1	セミナー2			
							卒業研究			
専門履修単位（想定）		16	16	17	17	17	18	6	6	113
内 必修単位数		9	12	15	9	9	4	0	6	64
履修合計		22	21	22	22	21	20	6	6	140
専門系開講単位数		20	24	26	24	28	27	11	6	166

★選択必修（構造・材料実験、建築測量学同実習の2科目から1科目）
☆選択必修（建築生産1、建築生産2の2科目から1科目）

・デザイン系履修モデルB

このモデルでは、デザイン系の授業科目を選択しています。
卒業後の進路として、設計事務所を想定しています。

履修モデルB (デザイン系)

科目群		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
学 科 目	Aグループ	4	3	1	1				必修9単位 選択必修18単位
	Bグループ	2	2	4	4	4	2		
履修単位(想定)		6	5	5	5	4	2	0	0
専 門 基 礎 科 目 群	自然科学系	線形代数1 2	線形代数2 2	力学3 2					
	建築学基礎系	力学1 2	力学2 2	化学1 2	化学2 2	建築基礎数理1 2	建築基礎数理2 2	建築概論 2	芸術概論 2
	情報系	造形基礎実習 2	建築デザイン 基礎実習 2	建築の仕組み 2	環境色彩論 2	力と形演習 2	建築統計処理 2	建築プレゼン テーション演習 2	デジタルグラフィ ケーション演習 2
専 門 科 目 群	建築計画分野	建築・インテリア 図法実習1 2	建築・インテリア 図法実習2 2	建築設計1 3	建築設計2 3	建築設計3 3	総合空間設計1 3	総合空間設計2 3	建築計画1 2
	歴史分野			建築設計2 2	空間文化論 2	住空間論 2	建築企画論 2	まちづくり論 2	建築法規 2
	環境分野			環境工学1 2	環境工学2 2	環境工学3 2	建築設備 2	環境心理学 2	環境評価演習 2
	材料施工分野	建築橋法 2	建築材料 2	建築環境材料 2	★構造・材料 実験 2	維持・保全工学 2	★建築測量学 同実習 2		
	構造分野	構造力学1 2	構造力学2 2	骨組の解析法 2	鋼構造 2	振動と塑性解析 2			
	他専攻 展開科目			インテリア設計1 3	インテリア設計2 3	インテリア設計3 3			
	総合分野 ・ 卒業研究	建築・インテリア 入門ゼミナ 1		インテリア計画1 2	インテリア計画2 2	インテリアエッセ ンス演習1 2	インテリアエッセ ンス演習2 2	インテリア シミュ 2	セミナー1 2
				デザインマネジメ ント演習1 2		デザインマネジメ ント演習2 2		セミナー2 2	卒業研究 6
専門履修単位(想定)	16	16	17	17	17	17	7	6	113
内 必修単位数	9	12	15	9	9	4	0	6	64
履修合計	22	21	22	22	21	19	7	6	140
専門系開講単位数	20	24	26	24	28	27	11	6	166

★選択必修 (構造・材料実験、建築測量学同実習の2科目から1科目)
☆選択必修 (建築生産1、建築生産2の2科目から1科目)

建築学部 建築学科 建築専攻 カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、各科目を履修することにより、学生が何をできるようになるかという学修到達目標をあげ、それがどの学位授与の方針の達成につながるのかを示したものです。その見方を以下に説明します。

カリキュラム・マップでは、各授業科目の学修到達目標と学位授与の方針の関係の強さが数値的に示されています。ある学修到達目標を身につけることが、各学科専攻の定める全12項目の学位授与の方針のどの項目にどの程度関係するのかの強さを示す数値を貢献度といいます。一つの授業科目の全貢献度100をまず各学修到達目標に配分（縦方向）し、それぞれが関係する学位授与の方針に配分（横方向）しています。ひとつの学修到達目標が関係する学位授与の方針は複数になることもあります。

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修到達目標	大学の学位授与の方針																
			必修	選択	自由			学修到達目標																
								学修到達目標																
								学科(専攻)の学位授与の方針																
a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合計												
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1		1 [2]	高校と大学の学びの違いが理解できる。	5	5											10					
						ノートの取り方が効果的にできる。	5	5														10		
						文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。	5	5															10	
						図書館の利用法がわかる。	5	5															10	
						レポートの作成の必要手順が分かる。	5	5															10	
						基本的なレポートの作成ができる。	8	7														5	20	
						プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。	5	5															10	
						プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。	7	8														5	20	
		授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100					
		英語スキル1	2		1 [2]	「英語スキル1」では、高等学校までの英語学習を踏まえ、1年次の前期には、英語で発信力を高める基礎指導に重点を置き、発信型の英語力の基礎を養成することを目的とする。そのために、基礎的な語彙の習得に関して、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、スピーキングやライティングにおいて使用できる基礎的な発信語彙の習得をはかるようにする。こうした語彙の習得を土台とし、英語の4技能であるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングに関して、その複数の技能を絡めた活動を通じて、4技能の基礎をバランスよく向上させることをねらいとする。	題材を読み取り、基礎的な読解方略を身に着け、内容を的確に理解することができる。	6	6											1	13			
						題材に関する大まかな内容を聞き取ることができる。	8	8														2	18	
						題材に関して、シャドーイング等の練習により英語を正しく発音することができる。	8	8														2	18	
題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。	8					8														2	18			
題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。	8					8														2	18			
基礎的な英語の語彙の意味を習得し、正確に発音することができる。	7					7														1	15			
授業科目の貢献度	45					45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
英語スキル2	2						2 [3]	「英語スキル2」では、「英語スキル1」で学んだことを踏まえて、1年次の後期でも、英語で発信力を高める指導に重点を置き、発信型の英語力を養成することを目的とする。そのために、語彙の習得に関して、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、スピーキングやライティングにおいて使用できる発信語彙の習得をはかることに重点をおく。こうした語彙の習得を土台とし、英語の4技能であるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングに関して、その複数の技能を絡め、それらが相乗効果をもたらす活動を通じて、4技能のさらなる向上をはかることをねらいとする。	題材を読み取り、基礎的な読解方略を身に着け、内容をよりの確に理解することができる。	6	6											1	13	
		題材に関する内容を聞き取ることができる。	8	8																2	18			
		題材に関して、シャドーイング等の練習により英語を正しく、流暢に発音することができる。	8	8																2	18			
		題材に関して、自分の意見や考えを英語で簡潔に記述することができる。	8	8																2	18			
		題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。	8	8																2	18			
		英語の語彙の意味を習得し、より正確に発音することができる。	7	7																1	15			
		授業科目の貢献度	45	45	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
		資格英語	2		3 [4]			「資格英語」では、1年次における「英語スキル1」および「英語スキル2」による発信型の英語スキルを高める指導を踏まえ、2年次の前期においては、英語の資格試験TOEICにおける得点の向上をはかることを目的とする。TOEICにおける得点の向上をはかるために、リスニングおよびリーディングに関する学習方略を習得させることに重点を置くことにより、英文の基礎的な読解力および聴解力の向上をはかる。また、「英語スキル1」および「英語スキル2」における語彙指導を継続し、その語彙の意味がわかる受容語彙に留まらず、発信力を伴った英語の語彙の習得をはかることにも努める。	TOEICで出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。	9	9											2	20	
TOEICの英文のリスニング練習を通じて、英文を聞き取る方法を身に着けることができる。	9					9														2	20			
TOEICの英文のリーディング練習を通じて、英文を読み取る方法を身に着けることができる。	9					9														2	20			
TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの基礎となる英文法を理解できる。	9					9														2	20			
TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの土台となる基礎語彙が習得できる。	9					9														2	20			
授業科目の貢献度	45					45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			
実践英語	1						4	「実践英語」では、1年次の「英語スキル1」と「英語スキル2」、2年次の前期の「資格英語」の指導を踏まえ、英語の資格試験TOEICにおいて、さらなる高得点をとらせることを目的とする。TOEICで課される英文を読み進める学習方略および英語の聴き取りに関する学習方略を習得させることに重点を置き、英文の読解力および聴解力の一層の向上をはかる。1年次より継続した語彙指導に関しては、基礎的な語彙習得の確認をはかることともに、より難易度の高い語彙については、その意味がわかる受容語彙の拡大をはかる指導を行う。	TOEICで出題される語彙の意味を理解できる。	9	9												2	20
								TOEICの英文のリスニング練習を通じて、英文をより正確に聞き取る方法を身に着けることができる。	9	9														
		TOEICの英文のリーディング練習を通じて、英文をより正確に読み取る方法を身に着けることができる。	9	9																	2	20		
		TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの基礎となる英文法の知識を活用することができる。	9	9																	2	20		
		TOEICの英文のリスニングおよびリーディングの土台となる語彙が習得できる。	9	9																	2	20		
		授業科目の貢献度	45	45	0			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0		100			

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																			
			必修	選択	自由				a					b					c					d				
									学科(専攻)の学位授与の方針										合計									
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5		d 1	d 2							
人間科学科目群	Aグループ	英語ライティング	1		5	<p>「英語ライティング」では、1年次の「英語スキル1」および「英語スキル2」による英語の4技能の基礎力、2年次に学んだ「資格英語」における読解力および聴解力の向上を踏まえて、発信型の英語指導の一環として基礎的な英文の書き方の基礎を学ばせるとともに、与えられたテーマに関して、30分で100語程度の英文エッセイを記述できる英語のライティング力の養成をはかることを目的とする。また、作成した英文を他者に口頭で伝達する練習を行い、スピーキング力の向上をはかることにも、英語のプレゼンテーションが実践できる基礎力も養う。</p>	与えられたテーマに対して、深く考察し自分の意見を構築することができる。	9	9										2		20							
							パラグラフレベルのテキスト構成を組み立て方を理解することができる。	9	9														2		20			
							自身の意見をパラグラフレベルのテキスト構成に沿って英文を記述することができる。	9	9															2		20		
							自身の意見をパラグラフレベルのテキスト構成に沿って作成した英文を口頭で他者に伝達できる。	9	9															2		20		
							英語で初歩的で簡易なプレゼンテーションができる。	9	9															2		20		
							授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100		
		英語プレゼンテーション	1	6	<p>「英語プレゼンテーション」では、3年次前期の「英語ライティング」を踏まえて、英語のライティングスキルの向上をはかりながら、英語によるプレゼンテーションを行う基礎的な技能を習得させることを目的とする。英語によるアカデミックプレゼンテーションの構成方法やそこで使用される英語表現を学ばせ、英語のプレゼンテーションを行う原稿作成を行い、構成方法や英語表現を実際に使えるように指導する。こうした作成した原稿を他者に伝達する練習を行い、最終的には、英語によるプレゼンテーションを実施してもらい、英語によるプレゼンテーション能力の養成をはかる。</p>	プレゼンテーションでの与えられたテーマに対して、自身の意見を構築することができる。	9	9												2		20						
						英語でプレゼンテーションの簡易な原稿を記述することができる。	9	9															2		20			
						英語によるアカデミックプレゼンテーションの構成方法が理解できる。	9	9															2		20			
						英語によるアカデミックプレゼンテーションで使われるや英語表現を身に着けることができる。	9	9															2		20			
						英語で簡易なアカデミックプレゼンテーションができる。	9	9															2		20			
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100			
	中国語入門1	1	1	<p>「中国語入門1」では、はじめて外国語としての中国語を学ぶ学生を対象として、基礎的な中国語の理解をはかることを目的とする。この授業では、中国語の基礎となる発音を身に着けることに重点を置き、その後、基礎的な文法を学ばせ、簡易な会話練習を行ったり、読解力の養成につとめる。このような学びを通じて、中国語学習の入門から初期段階に至るまでに中国語の全体像を学習者が把握できるように指導する。また、中国の文化に触れる機会を授業内にもうけ、国際的な視野を養成することも目指す。</p>	中国語の初歩的な発音を身に着けることができる。	9	9												2		20							
					中国語の初歩的な文法を理解できる。	9	9															2		20				
					中国語できわめて初歩的な会話ができる。	9	9															2		20				
					中国語の初歩的な読解力を身に着けることができる。	9	9															2		20				
					中国の文化への関心を高め、国際的な視野の基礎を身に着けることができる。	9	9															2		20				
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
	中国語入門2	1	2	<p>「中国語入門2」では、「中国語入門1」を踏まえて、中国語への理解がより一層深まることを目的とする。この授業では、中国語の発音を身に着けることに重点を置き、さらに、語彙力を高める指導を行う。その後、基礎的な文法を学ばせ、会話練習を行ったり、読解力の養成につとめる。このような学びを通じて、中国語学習の入門から初期段階に至るまでに中国語の全体像を学習者が把握できるように指導する。また、中国の文化に触れる機会を授業内にもうけ、国際的な視野を養成することも目指す。</p>	中国語の基礎的な発音を身に着けることができる。	9	9												2		20							
					中国語の基礎的な文法を理解できる。	9	9															2		20				
					中国語で基礎的な会話ができる。	9	9															2		20				
					中国語の基礎的な読解力を身に着けることができる。	9	9															2		20				
					中国の文化への関心を高め、国際的な視野を身に着けることができる。	9	9															2		20				
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
スポーツ実技A(卓球)	1	1	<p>レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。</p>	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6														12								
				対人ラリーが20球続けられる。	7	7															2		16					
				フォアハンドロングによるラリーができる。	7	7																2		16				
				バックハンドによるショートのつなぎができる。	7	7																2		16				
				相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	6	6																2		14				
				目的の位置にサービスを打つことができる。	6	6																2		14				
				得点の数え方および審判ができる。	6	6																	12					
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					
スポーツ実技A(バドミントン)	1	1	<p>レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。</p>	正確なグリップでラケットを握ることが出来る	6	6															12							
				オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る	7	7																2		16				
				アンダーヘッドストロークが出来る	7	7																2		16				
				ネットプレーによるつなぎが出来る	7	7																2		16				
				スマッシュを打つ事が出来る	6	6																2		14				
				目的の位置にサーブを打つ事が出来る	6	6																2		14				
				得点の数え方および審判が出来る	6	6																	12					
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100					

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針												
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計
									学科(専攻)の学位授与の方針												
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2	
人間科学科目群	Aグループ	スポーツ実技A(硬式テニス)	1	1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6											12		
						フォアハンドストロークによるラリーができる。	7	7								2			16		
						フォアハンドストロークを打つことができる。	7	7								2			16		
						フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。	7	7								2			16		
						バックハンドボレーを打つことができる。	6	6								2			14		
						アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。	6	6								2			14		
						得点の数え方および審判ができる	6	6											12		
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100		
		スポーツ実技A(サッカー・フットサル)	1	1	レクリエーションスポーツとしてサッカー・フットサルの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確な部位でボールを蹴ることができる。	6	6												12	
						インサイドキックでパスをすることができる。	7	7								2			16		
						インステップキックでパスをすることができる。	7	7								2			16		
						アウトサイドキックでパスをすることができる。	7	7								2			16		
						パスされたボールを止めることができる。	6	6								2			14		
						スローインをする事ができる。	6	6								2			14		
						得点の数え方および審判ができる	6	6											12		
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100		
		スポーツ実技B(卓球)	1	2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6												12	
						対人ラリーが20球続けられる。	7	7								2			16		
						フォアハンドロングによるラリーができる。	7	7								2			16		
						バックハンドによるショートをつなぎができる。	7	7								2			16		
						相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。	6	6								2			14		
						目的の位置にサービスを打つことができる。	6	6								2			14		
						得点の数え方および審判ができる。	6	6											12		
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100		
スポーツ実技B(バドミントン)	1	2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る	6	6												12			
				オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る	7	7								2			16				
				アンダーハンドストロークが出来る	7	7								2			16				
				ネットプレーによるつなぎが出来る	7	7								2			16				
				スマッシュを打つ事が出来る	6	6								2			14				
				目的の位置にサーブを打つ事が出来る	6	6								2			14				
				得点の数え方および審判が出来る	6	6											12				
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
スポーツ実技B(硬式テニス)	1	2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。	6	6												12			
				フォアハンドストロークによるラリーができる。	7	7								2			16				
				フォアハンドストロークを打つことができる。	7	7								2			16				
				フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。	7	7								2			16				
				バックハンドボレーを打つことができる。	6	6								2			14				
				アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。	6	6								2			14				
				得点の数え方および審判ができる	6	6											12				
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
スポーツ実技B(サッカー・フットサル)	1	2	レクリエーションスポーツとしてサッカー・フットサルの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確な部位でボールを蹴ることができる。	6	6												12			
				インサイドキックでパスをすることができる。	7	7								2			16				
				インステップキックでパスをすることができる。	7	7								2			16				
				アウトサイドキックでパスをすることができる。	7	7								2			16				
				パスされたボールを止めることができる。	6	6								2			14				
				スローインをする事ができる。	6	6								2			14				
				得点の数え方および審判ができる	6	6											12				
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針												
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計
									学科(専攻)の学位授与の方針												
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2	
人間科学科目群	Aグループ	スポーツと健康の科学A	1		5	身体の仕組みについて理解できる。	5	5										10			
						運動による身体的反応について理解できる。	10	10											20		
						運動が健康に与える影響について理解できる。	10	10											20		
						運動を日常生活に取り入れる意義を説明できる。	10	10											20		
						運動を日常生活に取り入れる工夫ができる。	10	10									10		30		
						授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100		
	スポーツと健康の科学B	1		6	身体の仕組みについて理解できる。	5	5											10			
					運動による身体的反応について理解できる。	10	10											20			
					運動が健康に与える影響について理解できる。	10	10											20			
					運動を日常生活に取り入れる意義を説明できる。	10	10											20			
					運動を日常生活に取り入れる工夫ができる。	10	10									10		30			
					授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100			
情報リテラシー概論	1		1	コミュニケーション・ツールを適切に使い分けができる。	5	5											10				
				文書作成ソフトを使用して、適切な構造の文書を作成することができる。	10	10									5		25				
				表計算ソフトを使用して、データを集計・加工・分析・可視化することができる。	10	10											20				
				プレゼンテーションソフトを使用して、統一的なプレゼンテーション資料を作成することができる。	10	10									5		25				
				クラウド・ストレージを適切に使用することができる。	5	5											10				
				インターネット等で得られるデータの著作権等に基づき適切に使用することができる。	5	5											10				
授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100								
データサイエンス概論	1		2	「第4次産業革命」や「Society 5.0」という言葉に代表されるような超スマート社会で活躍するであろう皆さんにとって、分野によらずデータサイエンス・AIを理解し活用する力が重要である。本講義は、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を身につけることを目的としています。データやAIが社会にどう関わっているかを理解し、データを理解し活用するための方法について学修します。	10	10											20				
				データ・AIを利活用するための技術について説明することができる。	10	10											20				
				データ・AIの利活用に必要な数学や統計の基礎を理解している。	10	10											20				
				数学や統計の知識を活用してデータを理解し説明することができる。	15	15									10		40				
				授業科目の貢献度	45	45	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
				文学A	2		1 3 5	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。			30									30	
文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。			30												30						
文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。			30												30						
自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。			10												10						
授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100								
文学B	2		2 4 6	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。			30									30					
文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。			30												30						
文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。			30												30						
文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。			10												10						
授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100								
哲学A	2		1 3 5	プラトン哲学におけるイデア論、デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。			30									30					
啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。			30												30						
西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。			30												30						
哲学の学習を通じて、知的リフレッシュメントを味わうことができる。			10												10						
授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100								
哲学B	2		2 4 6	哲学の学問的意義を理解し、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。			30									30					
「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。			30												30						
倫理思想の大まかな流れについて理解することができる。			30												30						
自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。			10												10						
授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0	100								

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針															
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計			
									学科(専攻)の学位授与の方針															
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2				
人間科学科目群	Bグループ	人類学A	2		3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	形のないものの価値について説明することができる。			30										30				
							様々な文化を比較しつつ説明することができる。			30													30	
							習慣の意味を説明する事ができる。			30														30
							現代における人間像について様々な角度から考え、論じる事ができる。													10				10
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100
		人類学B	2		4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて説明する事ができる。			30											30			
							文化についての様々な考え方を説明する事ができる。			30													30	
							通過儀礼の意味を説明する事ができる。			30														30
							「変わっていくもの」と「変わらないもの」の意味を考え、論じる事が出来る。													10				10
							授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100
		歴史学A	2		1・3・5	歴史学の学習を通じて、現代に生きるわれわれが学ぶべき教訓を読み取る。	歴史学の魅力と学問分野としての特徴および思考方法を理解する。			30											30			
							授業で扱う対象(国、地域、人物)および歴史的事例についての基本的理解を得る。			30													30	
	現代の同時代的テーマについて、歴史的視点から考察することができる。								30														30	
	過去の事例から教訓をみつけ、これを現代社会においてどのように活かせるかを考える。																		10				10	
	授業科目の貢献度						0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100	
	歴史学B	2		2・4・6	歴史学の学習を通じて、現代に生きるわれわれがもつ「常識」を相対化し、現代社会に関わるテーマを問い直す。	歴史学の魅力と学問分野としての特徴および思考方法を理解する。			30											30				
						授業で扱う対象(国、地域、人物)および歴史的事例についての基本的理解を得る。			30													30		
						現代的課題(政治・経済・文化その他)について、歴史学の視点から考察することができる。			30														30	
						過去の事例から教訓をみつけ、これを現代社会においてどのように活かせるかを考える。													10				10	
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100	
	心理学A	2		1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚、感情、学習といった心理学の基本的なテーマについて、理解することができる。			30											30				
						発達という概念および発達過程について、理解することができる。			30													30		
						パーソナリティという概念について、理解することができる。			30														30	
						心理学の知識をもとに、自分自身や身近な出来事について、理解することができる。													10				10	
授業科目の貢献度						0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
心理学B	2		2・4・6	他者(たち)との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己に関する諸概念や社会的認知の特徴と機能について、理解することができる。			30											30					
					対人魅力や対人関係、対人コミュニケーションの特徴と機能について、理解することができる。			30													30			
					集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。			30														30		
					心理学の知識をもとに、自分自身や身近な出来事について、理解することができる。													10				10		
					授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100		
教育原理	2		1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。			30											30					
					近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。			30													30			
					教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。			30														30		
					近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。													10				10		
					授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0			100		

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																							
			必修	選択				自由	a					b					c					d							
									学科(専攻)の学位授与の方針																						
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合計										
人間科学科目群	Bグループ	教育心理学	2	3	「教育」という営みをとらえてみる人間の变化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、各発達過程における特徴を把握することができる。			15															15							
						「青年期」の特徴を理解し、この時期特有の問題について心理学的な観点から考察することができる。			15																				15		
						学習の基礎となる条件づけ、記憶の役割などを踏まえながら、基礎的な学習理論を理解することができる。			15																					15	
						学習へのやる気を高めるために、動機づけ、学習意欲、無気力のメカニズムを理解することができる。			15																					15	
						学校における現代的課題として、いじめ、不登校、発達障害などを取り上げて関連知識を身に付けるとともに、アプローチの仕方について考察することができる。			15																						15
						教育評価について、基本的な考え方と方法、評価資料収集の技法を理解することができる。			15																						15
						教師と生徒の望ましい人間関係を理解したうえで、教師の指導行動のあり方について考察することができる。																						10			10
						授業科目の貢献度	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0									100
		政治学A	2	1・3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念(政治、権力、国家など)を理解する。				30																	30				
						自由民主主義の理論と政治制度について理解する。			30																				30		
						政治制度の基本的枠組み(国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など)を理解する。			30																					30	
						自分と政治との関わりについて考えることができる。																					10			10	
		授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100				
		政治学B	2	2・4・6	現代日本を含む世界の民主主義・非民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。				30																	30				
						現代民主主義の理論的特徴について理解する。			30																				30		
						現代民主主義の制度的特徴について理解する。			30																					30	
						授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。																					10			10	
		授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100				
		経済学A	2	1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論について説明することができる。				30																	30				
						資本主義の意味と影響について説明することができる。			30																				30		
						経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。			30																					30	
						経済的・社会的な事象ををデータに基づいて論じることができる。																					10			10	
		授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100				
		経済学B	2	2・4・6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	企業の特性・構造について説明できる。				30																	30				
日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。							30																					30			
歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。							30																					30			
経済的・社会的な事象ををデータに基づいて論じることができる。																									10			10			
授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100						
法学A	2	3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。				30																	30						
				授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。			30																				30				
				授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。			30																					30			
				日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。																					10			10			
授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100						
法学B	2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯および基本原則が説明できる。				30																	30						
				国民主権、基本的人権、表現の自由の内容と意味を理解し説明できる。			30																				30				
				違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。			30																					30			
				日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。																					10			10			
授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100						
社会学A	2	1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	近代を背景に成立した社会学の特徴について説明できる。				30																	30						
				社会と個人の関係について説明できる。			30																				30				
				社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて説明できる。			30																					30			
				社会学の概念を用いながら社会関係のメカニズムを論じる事ができる。																					10			10			
授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0										100						

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																	
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計					
									学科(専攻)の学位授与の方針																	
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2						
人間科学科目群	Bグループ	社会学B	2		2・4・6	社会学が持つ分析方法を学ぶ。また、異なった価値観・論理を持つ主体や社会の間に存在する関係性に着目し、理解することを目指す。	社会学が持つ分析法(量的・質的)について、説明できる。				30										30					
						都市の特徴と都市社会学の歴史について説明できる。				30														30		
						近代以降の日本社会と社会学について説明できる。				30															30	
						社会学の概念を用いながら社会変動のメカニズムを論じる事ができる。																		10	10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100	
		社会調査法A	2		3・5	社会調査の目的とその種類(質的調査と量的調査)について理解する。				30													30			
						母集団及び標本抽出について理解する。				30														30		
						量的調査のための統計学の基本的知識(基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定)について理解する。				30															30	
						質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。																		10	10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100	
		社会調査法B	2		4・6	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。				30													30			
						調査票作成の技法(ワーディングや尺度構成)を身につける。				30															30	
						社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施(調査設計、データ収集、データ分析)に必要な知識を学ぶ。				30															30	
						調査票で得られたデータを統計学の知識に基づき分析する事ができる。																		10	10	
						授業で獲得した知識をもとに、社会調査の実施計画を立てることが出来る。																		10	10	
		現代社会論A	2		3・5	日本を含む世界の国々や諸地域について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。				30														30		
						これを踏まえ、自分を取り巻く社会の特徴と課題について考察する。				30															30	
						授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。				30																30
						担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。				30																30
						授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。				30																30
		現代社会論B	2		4・6	日本を含む世界の国々や諸地域について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。				30														30		
						これを踏まえ、自分を取り巻く社会の問題とその解決について考察する。				30																30
						授業で扱う国・地域・人物などのついで基本的な情報を理解する				30																30
						担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する				30																30
授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる								30																30		
教育社会学	2		2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。				30														30				
				学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。				30																30		
				教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。				30																30		
				学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。																			10	10		
				授業科目の貢献度	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100			
健康科学A	2		1・3・5	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解した上で、健康を維持・増進させる基礎的な知識を身につける。	疾病、外傷および外傷・傷害について理解できる。				30													30				
				ストレスおよびその対処法について理解できる。				30																30		
				生活習慣病について理解できる。				30																30		
				健康とはなにかを理解し、その維持増進のために自発的に取り組むことができる。																			10	10		
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100			
健康科学B	2		2・4・6	身体の内臓の仕組みと人体の構造について理解できる。				30														30				
				適切なトレーニング方法について理解することができる。				30																30		
				身体の内臓について理解することができる。				30																30		
				日常生活を通じて、身体についての理解と実践を結びつけて考えることができる。																			10	10		
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100			

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c					d			
									学科(専攻)の学位授与の方針									合計				
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2	合計	
人間科学科目群	Bグループ	認知科学A	2		3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。					30								30		
							知覚、記憶といった認知機能の仕組みや、神経機構について説明することができる。					30									30	
							ヒューマンエラーの原因について説明することができる。					30										30
							認知科学の知見をふまえ、様々なテーマについて学際的に考えることができる。													10		10
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100	
		認知科学B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学という学問、および我々が行っている認知について、基本的かつ論理的な説明をすることができる。					30										30	
						記憶のメカニズムや分類、自覚できない心の働きとその影響について、説明することができる。					30										30	
						ヒューマンエラーが生じる理由や予防法について、論じることができる。					30											30
						認知科学の知見をふまえ、様々なテーマについて学際的に考えることができる。													10		10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100		
		環境と防災A	2	3・5	自然環境・社会環境に関わる知識を学びつつ、災害が発生し、被害が拡大するメカニズムを考察する。	自然環境・社会環境と災害の関係について説明できる。					30										30	
						災害と防災・減災の歴史について説明できる。					30											30
	環境変動と災害の関係について説明できる。									30												30
	学修内容を踏まえた上で、災害への備えとして自身が行うべきことをまとめる事ができる。																	10		10		
	授業科目の貢献度					0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100			
	環境と防災B	2	4・6	自然環境・社会環境に関わる知識を学びつつ、防災・減災の実践上持つておくべき基礎的な知識を修得する。	自然環境・社会環境と災害の関係について説明できる。					30										30		
					防災・減災に関連する情報を取得・分析する事ができる。					30											30	
					防災・減災について地域が直面する課題について説明できる。					30												30
					学修内容を踏まえた上で、災害への備えとして自身が行うべきことをまとめる事ができる。													10		10		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100			
	自然科学概論A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。					30										30		
					科学リテラシーの必要性を理解できる。					30											30	
					近代科学の特徴を説明し、20世紀初頭における自然認識の大転換を理解することができる。					30												30
					科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。													10		10		
授業科目の貢献度					0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
自然科学概論B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。					30										30			
				物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。					30											30		
				現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。					30												30	
				現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考え、人間社会との関わりからの視点から将来を展望することができる。													10		10			
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
生物学A	2	3・5	生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱えない視点を獲得する。	生物学の基礎概念と思考方法を理解することができる。					30										30			
				生物多様性や生物の進化のメカニズムについて説明することができる。					30											30		
				生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。					30												30	
				生物学の学習を通じて、自然と人間の関係性を考えることができる。													10		10			
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100				
生物学B	2	4・6	生物学の基礎を習得し、生物の進化や環境との関係の視点から、自然と人間のかかわりを考える。	生物学の基礎概念と思考方法を理解することができる。					30										30			
				生物の進化史を大まかに説明することができる。					30											30		
				環境と生物の関係について説明することができる。					30												30	
				生物学の学習を通じて、自然と人間の関係性を考えることができる。													10		10			
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	10	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																
			必修	選択	自由				a					b					c					d	
									学科(専攻)の学位授与の方針										合計						
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5		d1	d2				
人間科学科目群	Bグループ	地球科学A	2		3・5	地球科学の魅力とその基礎概念や方法を理解する。					30									30					
						地震、プレート運動、構成物質などを理解する。					30												30		
						化石の観察から生物の進化の歴史を理解する。					30													30	
						授業で学んだ知識や概念を用いて、地球に関する基礎的考察ができる。																10		10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100	
		地球科学B	2		4・6	天体観測についてその歴史と方法を理解する。						30										30			
						津波のメカニズムを理解し、わが国の天気図を読み解き、自然災害について考察する。						30											30		
						地球の運動のデータを使い、暦の原理を理解する。						30												30	
						授業で学んだ知識や概念を用いて、地球の未来像を考察することができる。																10		10	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	10	0				100	
		課題探究集中講座	2		集中講義9月	理工系・情報学系の学生が、人文科学・社会科学・自然科学等の教養を身につけることができる。															30	30			
						問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。																30	30		
	人間科学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。																				40	40			
	授業科目の貢献度					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0			100			
	課題探究セミナーA					2		3・5	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。														20	20	
	諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。																			20	20				
	課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。																				20	20			
	自らの課題に対して解決まで導くことができる。																				20	20			
	コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。																				20	20			
	授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0			100							
	課題探究セミナーB	2		4・6	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。															20	20				
					諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。																20	20			
					課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。																	20	20		
					自らの課題に対して解決まで導くことができる。																	20	20		
コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。																					20	20			
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0			100								
教養総合講座A	2		3・5	現代の問題群を整理することができる。															25	25					
				ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。																25	25				
				課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。																	25	25			
				これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。																	25	25			
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0			100				
教養総合講座B	2		4・6	現代の問題群を整理することができる。															25	25					
				ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。																25	25				
				課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。																	25	25			
				問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。																	25	25			
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0			100				
専門基礎科学群	自然科学系	線形代数1	2	1	ベクトルの内積の定義を説明でき、成分による内積の計算ができる。														20	20					
					行列式の基本性質や余因子展開を使って行列式の計算ができる。																	35	35		
					行列の和・積等の計算ができる。																	15	15		
					逆行列を求めることができる。																	15	15		
					クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。																	15	15		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100		

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																			
			必修	選択	自由				a					b					c					d				
									学科(専攻)の学位授与の方針										合計									
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5		d1	d2							
自然科学系	線形代数2	2	2	2	2	空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。						15									15							
						ベクトルの外積の定義を説明でき、成分による外積の計算ができる。						30													30			
						ベクトルの外積について学び、内積および外積の図形への応用について学ぶ。また、複素平面の基本事項についても学ぶ。						20														20		
						1次変換の性質を説明でき、空間の回転の回転軸を求めることができる。						15														15		
						複素数の極形式を使った計算ができる。						20														20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
	化学1	2	2	1	1	物質の構成要素である原子、分子そのものやそれらが集団になったときに現れる基本的な性質と挙動について学ぶ。	物質の構成と結合を説明できる。						25									25						
						原子・分子の集合体としての気体・液体・固体の状態を説明できる。						25													25			
						溶液の濃度と性質との関係を説明できる。						25														25		
						化学反応の仕組みと熱の関係について説明できる。						25														25		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
						化学2	2	2	2	2	具体的な化学物質の特徴や化学反応について学ぶ。	酸・塩基の中和反応の仕組みを説明できる。						25									25	
酸化還元反応を理解し、電池・電気分解の説明ができる。											25													25				
元素の分類と代表的な無機物質の性質を説明できる。											25														25			
代表的な有機化合物の性質を説明できる。											25														25			
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0						100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100			
専門基礎科学群	力学1	2	2	1	2						物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。この力学1という科目の大きな目標は、(1)ベクトルに基づいて、力の合成・分解を正確に理解する。	力の合成・分解をベクトルを使って説明できる。						20								20		
						基本的な力(重力、ばねの力、摩擦力)の法則を説明できる。						20													20			
						速度、加速度の定義を説明できる。						20														20		
						力学の3つの基本法則を説明できる。						20														20		
						放物運動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。						20														20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
	力学2	2	2	2	2	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。この力学2という科目の大きな目標は、(1)仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーを正しく理解する。(2)力学1よりも複雑な運動(特に単振動)を、運動方程式を解いて理解する。の二つです。	仕事の定義を説明できる。						20									20						
						力学的エネルギー保存則を説明できる。						20														20		
						単振動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。						20														20		
						円運動と、慣性力としての遠心力を説明できる。						20														20		
						力のモーメントの定義を説明できる。						20														20		
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
力学3	2	2	3	3	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。この力学3という科目の大きな目標は、(1)力学2よりも高度なレベルでベクトルと微分積分を使って、物体の運動(減衰・強制振動、振り子運動)を理解する。(2)振動現象を基に理解できる波動現象の基礎事項を理解するの二つです。なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	運動方程式に基づいて、減衰振動と強制振動を説明できる。						25									25							
					角運動量と力のモーメントの定義をベクトルの外積を使って説明できる。						25													25				
					単振り子の運動方程式を解き、その運動を説明できる。						25														25			
					波動の基本的な性質を説明できる。						25														25			
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100			
					建築概論	2	2	1	1	4年間での学びを15週に凝縮し、オムニバス形式として開講する。建築で学ぶべき各分野の名称の補足やバランスを考慮し、以下のような項目を概説する。	建築学の分野について理解している。							5	5	5	5					20		
建築の歴史の概要について理解している。											10						10							20				
建築の構造や材料の概要について理解している。															10	10									20			
建築の環境の概要について理解している。																			20						20			
建築の設計や計画の概要について理解している。																									20			
授業科目の貢献度	0	0	0	10						0	0	15	15	35	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100			
芸術概論	2	2	2	2	絵画・彫刻・家具・建築・インテリア・映像・音楽といった多岐にわたる作品を、過去から現代にいたるまでの様々な名作を紹介取り上げて、様式からデザインに移行した歴史だけではなく、現代芸術の分野まで講ずることで、芸術や美術を学ぶ機会を提供する。	芸術全般の概要について理解している。						10								10	20							
					芸術の歴史について理解している。						10												10	20				
					現代美術の概要について理解している。						10													10	20			
					見たことがない作品を見て感想を言うことができる。						10														10	20		
					現代の芸術について批評することができる。						10														10	20		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	100		

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針															
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計			
									学科(専攻)の学位授与の方針															
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2				
専門基礎科学群	力学と形演習	2			1	力の釣合いについて説明できる。						10	5							15				
						単純ばりの反力について説明できる。					10	5										15		
						トラスの仕組みと部材に働く力について説明できる。					10	5	5										20	
						はりに力が作用したときのたわみについて説明できる。					10	5	5											20
						力のモーメントについて説明できる。					10	5												15
						力の釣合いから単純な構造の反力を計算で求めることができる。					10	5												15
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	60	30	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
	建築の仕組み	2			1	建築物に作用する荷重、外力を説明できる。							25								25			
						アーチ、軸組、壁、ブレース、トラス等の構造形式を説明できる。						25										25		
						模型製作を通じ、平面図、立面図等で建築のしくみを説明できる。									15			5	10				30	
						建築の構成を理解し、建築技術の巧みさが説明できる。									10	10							20	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	50	10	25	0	5	10					100	
	造形基礎実習	2			1	メモをとるように気軽に形や空間をスケッチできる。										10			20	30				
						建築写真のコピーをトレース、模写しながら鉛筆描写ができる。									10							20		
						建築やインテリアの設計・研究をしていくための造形の基礎実習を行う。メモをとるように気軽に形や空間をスケッチできるようにする。									10								20	
						建築や空間を想像し、スケッチすることができる。								10									20	
						人の作品を客観的に評価できる。												10					10	
	授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	10	50						100					
	建築デザイン基礎実習	2			2	形や空間に対する基礎的な理解を実習を通して深める事ができる。										30				30				
						素材の質感や特性を生かした造形表現ができる。									30							30		
						コンセプトに応じた形態の発想ができる。									20								20	
						人の作品を客観的に評価できる。									20								20	
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0					100	
	環境色彩論	2			2	色彩の基礎知識を説明できる。												20		20				
						色彩効果が理解できる。																20		
						色彩の歴史が理解できる。																	20	
						身の回りの環境の色彩に関する考察ができる。																	20	
						カラーマーケティングの視点が持てる。																	20	
授業科目の貢献度						0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0					100		
建築基礎数理1	2			1	いろいろな関数をグラフに表すことができる。						15	5	5		5				30					
					行列式の基本的な性質が説明できる。						15	5	5		5						30			
					三角関数や比例を用いて建物の面積や各部の寸法を求めることができる。							5	5		5							15		
					立体の計算ができ、建物の容積等を求めることができる。								5									5		
					データの統計的な処理が出来る。								10		5		5					20		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	10	30	20	20	0	20	0	0					100		
建築基礎数理2	2			2	力の釣合いを説明できる。							20							20					
					運動の状態を説明できる。																20			
					建築で必要な化学や反応式を理解することができる。							10					20					30		
					建築と環境の問題が説明できる。						10	10										20		
					建築の照明、断熱性などが計算できる。						10											10		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	10	30	40	0	0	20	0	0					100		

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																			
			必修	選択	自由				a					b					c					d				
									学科(専攻)の学位授与の方針																			
									a 1	a 2	b 1	b 2	b 3	c 1	c 2	c 3	c 4	c 5	d 1	d 2	合計							
専門基礎科学群	情報系	情報リテラシ	1	1	コンピュータの仕組みや情報伝達方法を知り、電子メール、インターネット、及び基本的なソフトウェアの操作方法を学ぶ。	コンピュータの構成を説明できる。													10	10								
						ログオン・ログオフ操作ができる。																10	10					
						電子メールを使いこなすことができる。																	15	15				
						ワープロの各種機能を用いて文章を作成できる。																	15	15				
						表計算ソフトを用いて表作成、表計算をすることができる。																	20	20				
						データを下にグラフを作成することができる。																	20	20				
						プレゼンテーション用ソフトを用いてスライドを作成することができる。																	10	10				
		授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100								
		建築CAD1	2	3	2次元CADの基本的な操作方法について学ぶ。	2次元CADソフト「VectorWorks」の各種設定ができる。															20	20						
						2次元CADソフト「VectorWorks」の基本操作ができる。																20	20					
	2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、各種図形を描くことができる。																					20	20					
	2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、平面図を描くことができる。																					20	20					
	2次元CADソフト「VectorWorks」を使用して、断面図を描くことができる。																					20	20					
	授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	100									
	建築CAD2	2	4	3次元CADの基本的な操作方法について学ぶ	VectorWorksの3Dコマンドの使用法を習得できる。															20	20							
					VectorWorksの3Dモデリングの手順を習得できる。																20	20						
					VectorWorksの各種柱状体、回転体、ブーリアン演算等の3Dコマンドの使用法を習得できる。																	20	20					
					VectorWorksにより具体的な物をモデリングすることができる。																	20	20					
					RenderWorksにより美しいレンダリング処理ができる。																	20	20					
	授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	100									
建築プレゼンテーション演習	2	5	ラスター系及びベクター系画像処理ソフトの基本的な操作方法について学ぶ。	「Adobe Photoshop」の基本操作を理解し、画像の加工・処理ができる。															20	20								
				「Adobe Illustrator」の基本操作を理解し、図形の描画・レイアウトができる。																	20	20						
				建築模型を美しく撮影すること、また写真をPCに取り込み、編集することができる。																	20	20						
				コンセプトを反映させたプレゼンシートを作成することができる。																	5	5	10	20				
				プレゼンシートを用いて第三者に的確に意図を伝える発表をすることができる。																	5	5	10	20				
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	10	20	100	100											
デジタルファブリケーション演習	2	6	本授業では、2次元CAD(建築CAD1)→3次元CAD(建築CAD2)→プレゼンテーション作成(建築プレゼンテーション演習)の流れを理解したうえで、3DプリンターやCNCルーター、大型レーザーカッターなどの、デジタルファブリケーションについての造詣を深めることを目標とする。	デジタルファブリケーションについて理解している。															10	15	25							
				3Dプリンターを使って造形物を作成することができる。																	10	15	25					
				CNCルーターを使って造形物を作成することができる。																	10	15	25					
				大型レーザーカッターを使って造形物を作成することができる。																	10	15	25					
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	60	100	100							
建築統計処理	2	5	様々なデータの統計処理手法を学ぶ。	アンケート調査票を作成することができる。																15	15							
				データの検索、並べ替えができる。																	10	10						
				基本集計ができる。																	10	10						
				クロス集計ができる。																	15	15						
				2つのデータの平均値の差の検定ができる。																	20	20						
				相関関係を求めることができる。																	15	15						
				表現したい内容に応じたグラフを作成することができる。																	15	15						
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100						
専門科目群	基幹科目	建築・インテリア入門	1	1	「建築・インテリア入門セミナー」は、建築/インテリア専攻の専門課程への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生同士の良好なコミュニケーション形成の場でもあります。授業は前述の主旨を踏まえて、優れた建築実例の見学会や建築専門誌、模型材料の購入先のアドバイスやスポーツを通じたコミュニケーション、映画鑑賞による建築の多様性の発見など、体験を重視した授業を行います。	建築/インテリアへの関心、興味を抱くことができる。													20	30	50							
						学生と教員、学生同士の良好なコミュニケーションを形成することができる。																	30	30				
						大学の施設を有効に活用し、円滑な学生生活を送ることができる。																	10	10				
						有意義な学生生活とするための目標を立てることができる。																	10	10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	100	100					

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																	
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計					
									学科(専攻)の学位授与の方針																	
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2						
専門科目群	基幹科目	建築計画1	2		2	建築の平面や断面を決定するための基本的知識及び住宅と集合住宅の計画的基礎知識を学ぶ。	建築図面にどのようなものがあるか説明できる。										15			15						
							椅子の基本的な部分の寸法を決めることができる。														15			15		
							建築の基本的な部分の寸法を決めることができる。																15			15
							明治期の武士住宅継承型平面及び大正期中廊下型平面の特徴を述べることができる。																20			20
							2K型平面から3LDK型平面への平面発達史を述べることができる。																20			20
							質の時代の住まい例を幾つか述べることができる。																15			15
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
		建築計画2	2		3	小学校、図書館、劇場、事務所、福祉施設等の平面や断面を決定するための基礎知識を学ぶ。	建築言語を理解し、説明することができる。												15	5		20				
							近代建築・現代建築における主要な建築・建築家を通して建築計画の最新の動向を理解することができる。															10	5		20	
							多種多様な建築・空間・建築家の事例に触れ、流動的な現代の建築計画に適応できる創造力を習得することができる。																15		5	20
							各種建物についてその役割(例えば博物館なら収集・保存・研究・展示)を説明できる。																20			20
							各種建物に必要な機能諸室の役割や規模、および諸空間の関係性を説明できる。																20			20
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	10	0	10	0	0	0	100
							構造力学1	2		2	静定ばりおよび静定ラーメンの解法、応力度とひずみ度、断面の性質を学ぶ。	各種支持状態とそこに生ずる支点反力を理解し、これを求めることができる。												15		
		骨組の安定・不安定、静定・不静定の意味を説明できる。																				15			15	
		骨組に生ずる応力や変形を説明できる。																					15			15
		静定はりの曲げモーメント分布、せん断力分布を求めることができる。																					20			20
		静定ラーメンの曲げモーメント図、せん断力図、軸方向力図を作図できる。																					20			20
		曲げモーメント図、せん断力図の意味やその相互関係を説明できる。																					15			15
		授業科目の貢献度	0	0	0	0						0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
構造力学2	2		3	静定トラスの解法、梁のたわみ、不静定構造物の解法原理について学ぶ。	静定トラスの解法を理解し、部材応力を求めることができる。												20			20						
					応力度とひずみ度、およびその関係について説明できる。															15			15			
					断面1次モーメント、断面2次モーメントの意味を理解し、これらを算出することができる。																15			15		
					はりの断面に生じる曲げ応力度およびせん断応力度を計算し、断面設計を行うことができる。																20			20		
					はりのたわみを計算できる。																15			15		
					応力法を用いて不静定ばりの応力を求めることができる。																15			15		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
骨組の解析法	2		4	たわみ角法とマトリクス構造解析法の基礎について学ぶ。	たわみ角法の原理が説明でき、基本式を書くことができる。												20			20						
					横移動のない骨組の曲げモーメント、せん断力をたわみ角法で求めることができる。															20			20			
					マトリクス構造解析法の原理を説明できる。															20			20			
					トラス部材の剛性マトリクスについて説明できる。															20			20			
					コンピュータを用いた構造解析の具体的手順について説明できる。															20			20			
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
建築構法	2		2	建築の構法面を中心に建築を理解するために必要な基本的な知識を学ぶ。	建築物の構造方式の種類と構法が説明できる。												15			15						
					建築物に作用する荷重、外力にはどのようなものがあるか説明できる。															15			15			
					木構造の基本的な説明ができる。															15			15			
					鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造の基本的な説明ができる。															15			15			
					鉄骨構造の基本的な説明ができる。															15			15			
					地質調査の方法を理解し、説明できる。																15			15		
					建築物の各部位の構成について説明できる。																10			10		
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	25	0	0	0	0	0	0	0	100		

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針																				
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計								
									学科(専攻)の学位授与の方針																				
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2									
専門科目群	基礎科目	建築材料	2			3	コンクリート構成材料の性質を説明できる。									20					20								
							コンクリートの性質を説明できる。																			20			
							鉄筋の性質を説明できる。																				20		
							構造用材と非構造用材に分けて、主に構造用材として使用される木の性質を説明できる。																				20		
							建築材料関係専門用語 300 語が説明できる。																				20		
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100		
	建築環境材料	2				4	建築材料の環境への影響を説明出来る。															20	20						
							環境影響評価手法の説明が出来る。																			20			
							金属・セラミック・屋根・石材の特性を説明できる。																				20		
							高分子材料・塗料・接着剤の特性を説明出来る。																				20		
							断熱・防火・防水材料の特性を説明出来る。																				20		
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	30	0	0	0	0	0	0	0	100		
	構造・材料実験	2			5 6	5	歪や変位、荷重の計測方法とその原理を説明できる。																10						
							実験に必要なデータ整理(統計処理)方法について説明できる。																			15			
							構造部材とその構成材料の性質を実験結果に基づいて説明できる。																				20		
							曲げ部材の平面保持の仮定を実験結果に基づいて説明できる。																				20		
							鉄骨トラスの変形や応力における理論と実験の対応関係を説明できる。																				20		
							振動学の基礎的事項を実験結果に基づいて説明できる。																					15	
	授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	35	0	0	0	0	0	10	0	0	100								
	建築法規	2				6	建築法規の歴史が説明できる。																20	20					
							法文解釈ができる。																				20		
							建築基準法の単体規定が説明できる。																					20	
							建築基準法の集団規定が説明できる。																					20	
							建築士法について説明できる。																					20	
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100								
建築・インテリア図法実習1	2				1	正確に線を引くことができる。																	20	20					
						線の種類とその意味が説明できる。																					20		
						表示記号が説明できる。																						20	
						図面を手順どおりに描くことができる。																						20	
						簡単な透視図を描くことができる。																						20	
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100							
建築・インテリア図法実習2	2				2	壁や柱など建築の基本的な寸法の把握ができる。																	10	10					
						平面図を適切に描くことができる。																					20		
						断面図を適切に描くことができる。																						20	
						効果的な建築模型を制作できる。																						10	30
						建築作品の図面や写真を分かりやすく一枚のポスターにまとめ、発表できる。																							20
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0	10	0	0	0	0	0	100							
建築設計1	3				3	建築の空間に対する簡単な提案ができる。																		15	15				
						建築の立面に対する簡単な提案ができる。																						15	
						戸建て住宅の基本的な計画ができる。																							30
						計画内容を建主に分かり易く説明するための図面を描くことができる。																							15
						計画内容を自分で描いた図面を使用しながら口頭で分かり易く説明することができる。																							
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	10	10	10	0	0	0	0	0	0	100							

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針														
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計		
									学科(専攻)の学位授与の方針														
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2			
専門科目群	基幹科目	建築設計2	3		4	事例見学調査を通して、展示空間を理解し、特徴を説明することができる。										10			10				
						小アート・ギャラリーを設計することができる。										20		5	10	35			
						事例見学および紙上調査を通して、学生寮を学び、特徴を説明することができる。												10				10	
						小規模な学生寮を設計することができる。												20		5	10	35	
						形とコンクリート構造との関係を提案することができる。												10				10	
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	10	20	100	
				建築設計3	3	5	全体テーマとなる「光と風の建築」により、快適な空気環境のあり方を習得することができる。											5			5		
		事例研究を通じ、「オフィスビル」の空間構成を理解し、さまざまなオフィスビルの特徴を説明できる。																		5		5	
		快適な外部空間をもつ小規模のオフィスビルの設計ができる。															20		5	5		30	
		事例研究を通じ、「小学校」の空間構成を理解し、さまざまなオフィスビルの特徴を説明できる。																			5		5
		小学校の設計をすることができる。															45		5	5		55	
								授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65	5	10	20	100	
				建築遺産A	2	3	古建築のもつ文化的価値を理解できる。										30				30		
		日本建築の構造表現と美的表現の特質を理解できる。															30				30		
		日本建築の構造部材の名称と役割を説明できる。															10				10		
		日本建築の軒の深い屋根を支える構造の仕組みが説明できる。															10				10		
		住宅平面の変化は、生活様式(機能)の変化に対応したものであることが説明できる。															10				10		
		仏堂平面の拡大は、宗教空間に人間の礼拝空間が入り込むことによって進化したことが説明できる。															10				10		
											授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0
				建築遺産B	2	4	古典系建築の特徴を説明できる。										30				30		
中世系建築の特徴を説明できる。															30				30				
古典系建築と中世系建築から、西洋建築史のおおよその流れを述べることができる。															20				20				
各様式の相違を理解できる。															10				10				
木造とは異なる、石造建築の構造的な特徴を述べることができる。															10				10				
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100			
		環境工学1	2	3	住環境を例に取り上げ、照明視環境の意味と重要性を説明できる。											15			15				
照明視環境を語る際に必要な測光量について、その定義を説明できる。																		20		20			
測光量の間の関係式を理解し、光に関する事象を説明するための計算ができる。																		20		20			
昼光の重要性を理解し、昼光方式の分類とそれらの特徴を説明できる。																		15		15			
人工照明、照明設備の分類とそれらの特徴を説明できる。																		15		15			
照明視環境の量と質に関する評価を、測光量などを用いて説明できる。																		15		15			
									授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	
		環境工学2	2	4	熱の移動形態について説明できる。											20			20				
室内の熱環境の評価について説明できる。																		15		15			
結露のメカニズムとその対策について説明できる。																		15		15			
室内の空気汚染とその対策について説明できる。																		20		20			
換気方式の種類について説明できる。																		15		15			
必要換気量を求めることができる。																		15		15			
									授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	
		環境工学3	2	5	太陽位置の算出法を説明できる。											15			15				
日影曲線を用いて建物の日影図を描くことができる。																		15		15			
日射の分類を説明できる。																		20		20			
音の物理量を理解する。																		15		15			
建築空間において望ましい音響条件について説明できる。																		15		15			
建築音響計画の具体的手法について説明できる。																		20		20			
						授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針															
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計			
									学科(専攻)の学位授与の方針															
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2				
専門科目群	基礎科目	建築設備	2			6	建築設備の目的と分類を説明できる。											10		10				
							空気調和の目的と設計目標を説明できる。													15		15		
							空気調和設備の各方式の特徴を簡単に説明できる。													15		15		
							冷暖房熱負荷の概要を説明できる。													20		20		
							給排水・衛生設備(給排水、衛生器具、消火)に関する重要な事項を説明できる。													20		20		
							電気設備(照明、動力、変電)に関する重要な項目を説明できる。													20		20		
	授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100			
	コンクリート系構造	2				4	コンクリート・鉄筋材料の特性を説明できる。											20		20				
							いろいろなコンクリート系構造の種類を挙げ特徴を説明できる。													25		25		
							鉄筋コンクリート構造の梁・柱の構造計算が出来る。													15	15		30	
							コンクリート基礎の構造が説明出来る。													15	10		25	
	授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	30	70	0	0	0	0	100			
	鋼構造	2				5	鋼材の機械的性質を説明できる。											10		10				
							許容応力度式設計法の内容について説明できる。													15		15		
							高力ボルト摩擦接合や溶接接合などの接合部の許容耐力を計算することができる。													10	5		15	
							引張材の有効断面の考え方を理解し、断面算定を行うことができる。													10	5		15	
							圧縮材の座屈長さ、細長比を正しく求め、断面算定を行うことができる。													10	5		15	
							曲げ材の横座屈を理解し、はり材の断面算定を行うことができる。													10	5		15	
授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	65	35	0	0	0	0	100				
展開科目	インターンシップ(学外研修)	2			集中	実習先企業がどのような業務を行っているのか、建築業界の中でどのような位置付けにあるのかを説明できる。													20	20				
						実務で発生する具体的な問題点の一例とその解決策について説明できる。															20	20		
						机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。															10	20	30	
						将来の進路に対する自分の考え方を述べる事ができる。															10	20	30	
	授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	100			
	空間文化論	2				4	自然環境の認識・概要について理解を深めることができる。											10	5		5	20		
							西洋の空間文化の概要について理解を深めることができる。													10	5		5	20
							日本の空間文化の概要について理解を深めることができる。													10	5		5	20
							近代の芸術文化の概要について理解を深めることができる。													10	5		5	20
	授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	0	0	50	25	0	25	100			
住空間論	2				5	質の時代に相応しい住宅建築の事例をいくつか説明できる。											20			20				
						質の時代に相応しい建築史を概観できる。													20			20		
						我が国の住宅建築を理解する幾つかのキーワードを説明できる。													20			20		
						建築構造材料の物性と空間の創り方の関係を概観できる。													20			20		
授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100				
建築企画論	2				6	現代建築の主要な建築家・作品の特徴を独自の視点で説明できる。											20	10		30				
						建築分野の様々な職能を理解して説明できる。													15	10		25		
						建築のプレゼンテーション手法を理解して説明できる。													20			20		
						建築に関する企画立案ができる。													25			25		
授業科目の貢献度								0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	100				

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計	
									学科(専攻)の学位授与の方針													
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2		
専門科目群	展開科目	都市計画	2		7	都市計画の目的と実現手段を学ぶとともに、実現手段の方法についての知見を学ぶ。	都市計画の目的と実現手段を説明できる。										20			20		
							街並みを整える方法が説明でき、設計に応用できる。											15	5			20
							緑や水辺を活かす方法を説明でき、設計に応用できる。											15	5			20
							道や広場についての課題が説明でき、設計に応用できる。											15	5			20
							安心して住めるまちについて説明でき、設計に応用できる。											15	5			20
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0		100
		まちづくり論	2		7	日本各地で展開されている村おこし、まちおこし、街づくりの知見を学ぶ。	1) 欧州諸国の都市再生の事例をいくつか説明できる。										15	5			20	
							2) 公共交通とまちづくりの事例をいくつか説明できる。										15	5			20	
							3) 環境の時代におけるまちづくりを説明できる。										15	5			20	
							4) 緑とまちづくりについての事例をいくつか説明できる。										15	5			20	
							5) まちづくりについて自分なりの主張を述べるができる。										15			5		20
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	75	20	0	5		100	
		建築デザイン論	2		6	建築デザインの論理を、具体的な建築作品の分析を通して開示していく。	デザインの発想が論理的なプロセスであることが説明できる。										30			30		
							デザインの発想において良いコンセプトと悪いコンセプトの区別ができる。										20				20	
							与えられた課題に対して良いコンセプトをたてることができる。										20				20	
							建築の空間が特別な「意味」をともなっていることが説明できる。										20				20	
							空間の特定の「意味」を表現するために、特定の造形が工夫されたことを理解できる。										10				10	
							授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100	
		総合空間設計1	3		6	設計事務所での実務経験を活かし、建築設計に関する実践的教育を行います。建築設計4 [C.SCAPE] では、2007年度より継続しているイタリア・ミラノ工科大学との共通課題に取り組みます。	課題発見を通じ、一般的な集合住宅の事例をいくつか説明できる。											5	5		10	
							課題発見やエスキス(スケッチ)を通じ、比較的新しい集合住宅の事例を説明できる。										5	5			10	
							エスキス(スケッチ)を通じ、単に「食寝」するだけでなく、「楽しく暮らす」集合住宅の提案ができる。										40			10		50
		プレゼンチェックを通じ、新しい集合住宅や集住態の提案を分かりやすく説明することができる。										20			10		30					
		授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	65	10	10	15		100						
		総合空間設計2	3		7	この授業は、第1フレーズと第2フレーズに大別される。第1フレーズではプレゼンテーションを主体とした課題が用意され、建築設計の係の総合的な能力の底上げを目指す。第2フレーズは建築コンペティションへの参加である。主催者から与えられたテーマに対し、社会性を考慮しながら独自の視点で回答を導きだすものである。	都市に働きかけている事例の資料を収集し、他人にわかりやすく説明することができる。										10			10		
与えられた立地に、都市や街に働きかける建築を企画することができる。															10				10			
自分の企画した内容に即した建築物を設計することができる。															25		5	5		35		
自分の設計提案を図面や模型で表現することができる。															20		5	5		30		
自分の設計提案を、聞く人に感動を与えるまでの表現をすることができる。															5		5	5		15		
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	15	15		100								
建築デザイン史	2		5	近代以降現代も含めて、建築や町並みの歴史と価値を理解し、それらを保存・継承・活用していく方法を世界的な視点から考える。	近代主義建築(モダニズム建築)の特徴を説明できる。										25			25				
					近代主義建築(モダニズム建築)が、第二次大戦後、多様化していった流れを説明できる。										25				25			
					ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ、フランク・ロイド・ライト、丹下健三など、近代建築の巨匠と呼ばれる建築家の作品の特徴を説明できる。										25				25			
					日本における近代建築の流れは欧米と違うことを説明できる。										25				25			
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0		100								
カビデザイン	2		6	テーマに基づいて工作物を製作し、そのデザイン・機能・強度等を具体的に吟味することにより、ものづくりの感覚を養う。	力を合理的に支える仕組みについて説明できる。										10			10				
					一定の制約の中で強度と剛性を確保するための方法を考えることができる。										5				5			
					機能と美しさに適切な強度を兼ね備えた工作物を具体的に作ることができる。										5			10		15		
					様々な要求を絡めながら形あるものを現実に作り上げることの難しさを理解できる。													10	25	35		
					自ら作り上げた工作物の問題点を分析し、次のステップに活かすことができる。													15	20	35		
授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	25	55	100								

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針											
			必修	選択	自由				a		b			c					d	
									学科(専攻)の学位授与の方針										合計	
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5		d1
専門科目群	展開科目	構造設計演習	2	6	鉄筋コンクリート構造または鋼構造建築物の構造設計を行う。	構造設計の基本を理解し、構造計画ができる。							15				20	35		
						簡単な略算で柱、はりの断面仮定ができる。						15				5	20			
						固定法、D値法を用いて応力計算ができる。						15					15			
						SまたはRC構造の部材算定ができる。						15					15			
						構造計算書が作成でき、構造図を書くことができる。						15					15			
		授業科目の貢献度							0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	25	100
		維持・保全工学	2	6	建築物のライフサイクルの観点から建築物の維持保全の基本事項について学ぶ。	建築物のライフサイクルの説明ができる。										10	5	10	25	
						建築物の維持保全の必要性が説明出来る。						10	10		5		25			
						建築物の診断手法について説明できる。						10	10		5		25			
						建築物の改修方法について説明できる。						10	10		5		25			
						授業科目の貢献度							0	0	0	0	0	30	30	0
		建築生産1	2	3	建築生産1は建築施工計画と工程管理および地下工事について学ぶ。	請負契約と見積りの方式について説明できる。												10	10	
						工事計画の手順について説明できる。						5	5				5	15		
						施工管理の基本的事項について説明できる。											10	10		
						工程表の種類・作成手順について説明できる。						5	5				5	15		
						仮設工事計画の基本的事項について説明できる。											10	10		
						地下工事時の調査について説明できる。									5		5	10		
						地下工事の工法について説明できる。								5	5		5	15		
						基礎・杭工事について説明できる。								5	5		5	15		
		授業科目の貢献度							0	0	0	0	0	20	25	0	0	0	55	100
建築生産2	2	4	建築生産2は地上躯体工事・仕上げ工事および設備工事について学ぶ。	鉄筋コンクリート工事施工計画について説明できる。								5	5			5	15			
				コンクリートの配合計画について説明できる。									10			5	15			
				鉄骨工事施行計画について説明できる。							5	5			5	15				
				仕上工事計画の基本事項について説明できる。											10	10				
				木工事の基本事項について説明できる。							5	5				10				
				内装仕上工事の基本的事項について説明できる。									5		5	10				
				外装仕上工事の基本的事項について説明できる。									5		10	15				
				解体工事工法の概要について説明できる。											10	10				
授業科目の貢献度							0	0	0	0	0	15	35	0	0	0	50	100		
建築測量学同実習	2	7	建築現場で行われる基礎的な測量の方法を学ぶ。	レベルを正しく扱うことができる。											20		20			
				トランシットを正しく扱うことができる。										20		20				
				水準測量、トラバースにおいて野帳を正しく記入することができる。										20		20				
				水準測量において閉合誤差の配分をすることができる。										10		10				
				トラバース計算ができる。										20		20				
				平板測量ができる。										10		10				
授業科目の貢献度							0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100			
環境心理学	2	5	建築・都市空間においてそれを形成する一要因である色彩について学ぶとともに、それらの空間を物理的ではなく、心理的に捉える手法を学ぶ。	環境心理学を学ぶ意義を説明できる。										15		15				
				建築の色彩に関する重要な要件を説明できる。										40		40				
				「環境-人間」系の中での、個人と集団との関わりを説明できる。										15		15				
				空間の雰囲気、大きさに関して、事例を取り上げその検討方法を紹介できる。										15		15				
				場所の分科と階層性、選択に関し、事例を取り上げてその検討方法を紹介できる。										15		15				
授業科目の貢献度							0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100			

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標	大学の学位授与の方針													
			必修	選択	自由				a		b			c					d		合計	
									学科(専攻)の学位授与の方針													
									a1	a2	b1	b2	b3	c1	c2	c3	c4	c5	d1	d2		
専門科目群	環境評価演習	2	6	光・熱・空気環境について実測し評価を行う。	室内の明るさ分布について説明できる。										15			15				
					建築で使われる色彩について説明できる。										15			15				
					照明用光源の発光原理について説明できる。													15			15	
					光源の分光分布および点滅特性について説明できる。													20			20	
					結露発生の仕組みを説明できる。													15			15	
					室内における温熱環境評価について説明できる。													20			20	
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	
	展開科目	2	6	質点系の振動や骨組の塑性設計法について学ぶことができる。	塑性設計の原理を説明できる。							25							25			
					仮想仕事法を用いて簡単な骨組の塑性耐力を求めることができる。									25							25	
					振動方程式が書け、説明できる。										25							25
					Sin波地動を受ける1質点系の応答解析ができる。										25							25
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100	
	鉄筋コンクリート構造演習	2	5	鉄筋コンクリート構造について演習を通してその構造計算法を学ぶ。	鉄筋コンクリート構造の架構の基本的な説明ができる。							15	5						20			
					鉄筋コンクリート造スラブの計算ができる。								15	5							20	
					鉄筋コンクリート造の計算ができる。								15	5								20
					鉄筋コンクリート構造の架構の計算ができる。								15	5								20
					プレストレスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造について説明できる。									20								20
					授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	100	
卒業研究	セミナ1	2	6	分野ごとの専門的なテーマの研究を計画できる												10	10	20				
				分野ごとの専門的なテーマの研究を実行できる													10	10	20			
				分野ごとの専門的なテーマの研究を卒業論文・卒業設計にまとめることができる								10						10	20	40		
				分野ごとの専門的なテーマの研究を発表できる														20		20		
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	30	60	100			
	セミナ2	2	7	分野ごとの専門的なテーマの研究を計画できる												10	10	20				
				分野ごとの専門的なテーマの研究を実行できる													10	10	20			
				分野ごとの専門的なテーマの研究を卒業論文・卒業設計にまとめることができる								10						10	20	40		
				分野ごとの専門的なテーマの研究を発表できる														20		20		
				授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	30	60	100			
卒業研究	6	7・8	分野ごとの専門的なテーマの研究を計画できる												10	10	20					
			分野ごとの専門的なテーマの研究を実行できる													10	10	20				
			分野ごとの専門的なテーマの研究を卒業論文・卒業設計にまとめることができる								20						10	10	40			
			分野ごとの専門的なテーマの研究を発表できる														20		20			
			授業科目の貢献度	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	30	50	100				

■ 建築学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考			
					1年次		2年次		3年次		4年次					
		必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期				
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1			2	[2]									
		基礎英語 세미나			1	2	[2]									
		英語スキル1	2			2	[2]									
		英語スキル2	2					2	[2]							
		資格英語	2						2	[2]						
		実践英語		1						2						
		英語ライティング		1							2					
		英語プレゼンテーション		1								2				
		中国語入門1		1		2										
		中国語入門2		1			2									
	スポーツ実技A		1		2											
	スポーツ実技B		1			2										
	スポーツと健康の科学A		1						2							
	スポーツと健康の科学B		1							2						
情報リテラシー概論	1			◎											集中・遠隔	
データサイエンス概論	1				◎										集中・遠隔	
人間科学科目群	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解		2		2		2		2		2				
		文学A		2			2		2		2		2			
		文学B		2				2		2		2		2		
		哲学A		2			2		2		2		2			
		哲学B		2				2		2		2		2		
		人類学A		2				2		2		2		2		
		人類学B		2					2		2		2			
		歴史学A		2		2		2		2		2		2		
		歴史学B		2			2		2		2		2			
		心理学A		2		2		2		2		2		2		
	心理学B		2			2		2		2		2				
	教育原理		2		2											
	教育心理学		2				2									
	国際情勢と社会のしくみ		2			2		2		2		2		2		
	政治学A		2			2		2		2		2		2		
	政治学B		2				2		2		2		2			
	経済学A		2			2		2		2		2		2		
	経済学B		2				2		2		2		2			
	法学A		2				2		2		2		2			
	法学B		2					2		2		2		2		
社会学A		2		2		2		2		2		2				
社会学B		2			2		2		2		2		2			
社会調査法A		2				2		2		2		2				
社会調査法B		2					2		2		2		2			
現代社会論A		2					2		2		2		2			
現代社会論B		2						2		2		2				
教育社会学		2				2										
科学的なものの方	健康科学A		2		2		2		2		2		2			
	健康科学B		2			2		2		2		2				
	認知科学A		2				2		2		2		2			
	認知科学B		2					2		2		2				
	環境と防災A		2				2		2		2		2			
	環境と防災B		2					2		2		2				
	自然科学概論A		2		2		2		2		2		2			
	自然科学概論B		2			2		2		2		2				
	生物学A		2				2		2		2		2			
	生物学B		2					2		2		2				
地球科学A		2					2		2		2					
地球科学B		2						2		2		2				
学問への複眼的アプローチ	課題探究集中講座		2				◎								集中	
	課題探究セミナーA		2					2		2		2				
	課題探究セミナーB		2						2		2		2			
	教養総合講座A		2					2		2		2				
	教養総合講座B		2						2		2		2			
合計		9	93	1	30	26	42	40	42	42						
						[6]	[2]	[2]								

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考		
		必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次				
					1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
専門基礎科目群	基礎数学 세미나			1	2	[2]									
	基礎理科 세미나			1	2	[2]									
	線形代数 1		2		2										
	線形代数 2		2			2									
	化学 1		2		2										
	化学 2		2			2									
	力学 1		2		2	[2]									
	力学 2		2			2									
	力学 3		2				2								
	建築概論	2			2										
	芸術概論	2				2									
	力と形演習	2			2										
	建築の仕組み		2		2										
造形基礎実習		2		4											
建築デザイン基礎実習		2				4									
環境色彩論		2				2									
建築基礎数理 1	2			2											
建築基礎数理 2	2				2										
情報系	情報リテラシ		1		2										
	建築CAD 1	2					2								
	建築CAD 2		2					2							
	建築プレゼンテーション演習		2						2						
	デジタルファブリケーション演習		2							2					
建築統計処理		2							2						
小計	12	31	2	24	16	4	2	4	2						
		45			[6]										
専門科目群	建築・インテリア入門セミナー	1			2										
	建築計画 1	2				2									
	建築計画 2	2					2								
	構造力学 1	2					2								
	構造力学 2	2						2							
	骨組の解析法		2						2						
	建築構法	2				2									
	建築材料	2					2								
	建築環境材料		2					2							
	構造・材料実験		2							4	(4)				
	建築法規	2									2				
	建築・インテリア図法実習 1	2			4										
	建築・インテリア図法実習 2	2				4									
	建築設計 1	3					4								
	建築設計 2	3						4							
	建築設計 3	3							4						
	建築遺産 A	2						2							
	建築遺産 B	2							2						
	環境工学 1	2						2							
	環境工学 2	2							2						
	環境工学 3	2								2					
	建築設備	2									2				
	コンクリート系構造	2								2					
	鋼構造	2								2					
	展開科目	インターンシップ (学外研修)		2							◎				集中
		空間文化論		2						2					
住空間論			2							2					
建築企画論			2								2				
都市計画			2									2			
まちづくり論			2									2			
建築デザイン論			2									2			
総合空間設計 1			3									4			
総合空間設計 2			3										4		
建築デザイン史			2							2					
力とデザイン			2									2			
構造設計演習			2									2			
維持・保全工学			2									2			
建築生産 1			2					2							
建築生産 2			2						2						

区分	授業科目	単位数			毎週授業時間数								備考	
		必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次			
					1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門科目群	展開科目	建築測量学同実習		2								4		
		環境心理学		2					2					
		環境評価演習		2							2			
		振動と塑性解析		2							2			
		鉄筋コンクリート構造演習		2						2				
	卒業研究	セミナ1		2							2			
		セミナ2 卒業研究	6	2								2	◎	◎
	小計		50	52		6	10	16	18	20	24 (4)	14		
			102											
	自由科目	工学概論			2					2				
職業指導1				2							2			
職業指導2				2								2		
小計				6					2		2	2		
		6												
合計		62	83	8	30	26 [6]	20	20	26	26 (4)	16	2		
		153												

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。
2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。
3. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は124単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年		必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)		
24 生	建築学科 建築専攻	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	建築・インテリア入門 세미나		
	建築学科 インテリアデザイン専攻		基礎英語セミナー 基礎数学セミナー 基礎理科セミナー		
	建築学科 かおりデザイン専攻	かおりデザイン入門セミナー			
	建築学科 都市空間インフラ専攻	都市空間インフラ入門セミナー			

- 注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
注2) 基礎英語セミナー、基礎数学セミナー、基礎理科セミナーの3科目については、**卒業研究履修基準の必要単位数**
(建築専攻:100単位、インテリアデザイン専攻:100単位、かおりデザイン専攻:100単位、都市空間インフラ専攻:104単位)
には含まませんが、合格していることが必要です。

<不合格者>4年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻名	科目群	必要単位数	
24 生	建築学科 各専攻	人間科学科目群	下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)「スポーツ実技A」「スポーツ実技B」の 2 科目 2 単位または、 「スポーツと健康の科学A」「スポーツと健康の科学B」の 2 科目 2 単位 (3)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (4)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (5)科学的なものの見方から 2 単位以上	
	建築学科 建築専攻	専門基礎科目群	必修科目 12 単位	
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 50 単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の 2 科目から 2 単位 (3)「建築生産 1」「建築生産 2」の 2 科目から 2 単位	
	建築学科 インテリアデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 18 単位	
		専門科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 44 単位 (2)「構造・材料実験」「建築測量学同実習」の 2 科目から 2 単位 (3)「建築生産 1」「建築生産 2」の 2 科目から 2 単位	
	建築学科 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 2 単位	
		専門科目群	必修科目 53 単位	
	建築学科 都市空間インフラ専攻	専門基礎科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 4 単位を含め 8 単位以上 (2)「化学 1」「力学 1」の 2 科目から 2 単位	
専門科目群		以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 44 単位 (2)5 期～6 期の展開科目の選択科目から 16 単位以上		

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

【他学部・他学科履修】

工学部及び情報学部の専門基礎科目群・専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

【学科内他専攻履修】

開講科目一覧表における、自専攻に開講していない他専攻科目の単位を修得した場合の取り扱いは下記のとおりです。

所属学科・専攻名	同一学科内の他の専攻の開講する授業科目の各取扱		
建築学科 建築専攻	インテリアデザイン専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	12単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	かおりデザイン専攻		
	都市空間インフラ専攻		
建築学科 インテリアデザイン専攻	建築専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	12単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	かおりデザイン専攻		
	都市空間インフラ専攻		
建築学科 かおりデザイン専攻	建築専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	6単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	インテリアデザイン専攻		
	都市空間インフラ専攻		
建築学科 都市空間インフラ専攻	建築専攻	授業科目の区分は 選択科目とする。	6単位を上限として、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。
	インテリアデザイン専攻		
	かおりデザイン専攻		

先修条件について

学科共通

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件(「先修条件」)がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	学科・専攻	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
			科目名	期	必選	科目名	期	必選
24 生	建築学科 建築専攻 インテリアデザイン専攻 かおりデザイン専攻	専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
		専門基礎科目群	力学2	2	選	力学1	1[2]	選
			力学3	3	選	力学2	2	選
	建築学科 都市空間インフラ専攻	専門科目群	応用情報処理1	3	選	「基礎情報処理1」かつ 「基礎情報処理2」	1.2	必
			応用情報処理2	4	選	応用情報処理1	3	選
			CAD 演習 2	4	選	CAD 演習 1	3	必
			GIS演習	6	選	GIS基礎	5	選
			3D 設計基礎	5	選	CAD 演習 2	4	選
			VR 演習	6	選	3D 設計基礎	5	選
			構造工学3	3	選	構造工学2	2	必
			都市デザイン実習	5	選	地域・都市計画	3	選
	輸送システム	6	選	交通計画	4	選		